HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソ連・東欧研究文献目録 1977
Author(s)	松田, 潤//編
Citation	スラヴ研究, 23, 219-267
Issue Date	1979
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/5085
Type	bulletin (article)
File Information	KJ00000113052.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ソ連・東欧研究文献目録* 〔II〕 1977**

松　田　　潤 編

Bibliography of Slavic and East European Studies in Japan 1977

Compiled by Jun MATSUDA

凡　　例

1. この文献目録は，1977年にわが国で刊行されたソ連・東欧研究とこれに関係すると思われる分野の単行書および雑誌論文と記事を収録している。
2. 各文献の分類は，つぎに掲げた分類表によった。
3. 各文献の排列は，分類項目のなかで著者名のアルファベット順（ヘボン式）により，著者名のないものは論題名のアルファベット順に著者名排列のなかに組入れた。又，重出したものは，各分類の最後に参照として〔アイテム番号〕のみをしめした。
4. 単行書は，各分類項目のはじめ，すなわち雑誌論文の前に排列し，記載は著者名，書名，発行地，発行所，発行年，ページ数の順に並べた。
   翻訳書のばあいは，書名のつぎに訳者名を掲げた。
   単行書のうち，講座，論文集など著者が2人以上のばあいは，単行書として掲げるほか，必要に応じて著者，論題ごとに分出し，最後にその収録されている書名を→〔アイテム番号〕をもってしめした。
5. 論文は，筆者名，論題名，誌名，巻号，所収ページ，発行年月日の順で記載した。巻号数については，第5巻第1号は5(1)，第3･4号合併のばあいは(3/4)とした。また雑誌の発行年月日が1978年10月のばあいは(10, 1978)とした。
6. 書評は，各項目のあとにアイテム番号にRをつけて区別し，その書評対象図書が本目録に収録されているときはそのアイテム番号を→〔アイテム番号〕でしめした。1976年度の目録に掲載のものは〔'76-アイテム番号〕とした。
7. 外国人著者については，カナ書きのあとにカッコに入れて原著名を併記した。
   翻訳論文および翻訳書で原著名がロシア文字は下記のとおり翻字した。
   А-A　Б-B　В-V　Г-G　Д-D　Е-E　Ё-E　Ж-ZH　З-Z　И-I　Й-I　К-K　Л-L　М-M
   Н-N　О-O　П-P　Р-R　С-S　Т-T　У-U　Ф-F　Х-KH　Ц-TS　Ч-CH　Ш-SH　Щ-SHCH
   Ъ-"　Ы-Y　Ь-'　Э-E　Ю-IU　Я-IA
8. 論題名にでてくる基数および序数，たとえば，五カ年計画，その一，昭和五十二年度などの数字は，すべてアラビア数字に統一した。
9. 座談会の記事については，その題名と参加者のみを記した。
10. 以下の項に該当する文献はのぞいてある。
    a) マルクス主義と社会主義に関する論文で，ソ連・東欧研究と明瞭に判断できないもの。
    b) 週刊誌，新聞等にのった論文，記事。

* 目録編纂にあたっては，今回も各図書館で種々の便宜をはらっていただいた。又，作業にあたっては，長谷部宗吉，佐々木優の方々の協力があった。記して謝意にかえる。

** 本号には，前号（1978年3月刊『スラヴ研究』第22号 pp. 271-301）に引き続き1977年1月—12月刊の文献を収録対象とした。また，前回調査の後，編者の調査しえた1976年刊行のものを各分類項目の後に追補として収録した。なお本号の目録編集上の改訂は，『経済資料研究』12号における木田橋喜代慎氏の意見に負うところが多い。

Editorial notes

1. This bibliography aims to list books and articles about Slavic and East European studies in Japanese and in Western languages written by Japanese authors published in 1977.
2. All items have been classified in accordance with the Classification Scheme in p. 221.
3. Items within each classification category is listed in the alphabetical order by the author's given name. When the author is not attributed to, they are listed by the title.
4. In each classification category books are listed first. Bibliographical discriptions are: author, title, place of publication, publisher, year of publication, and the number of pages. In the case of translation, the translator's name comes after the title. Where a book has two or more authors, it is listed by its first author. As, in the case of proceedings or collection of articles, each articles contained in it are separately described like the articles in the journals along with the entry of the book. The item number of the book can be traced from the entry of each articles.
5. Articles listed are after listing the books. Bibliographical discriptions are: author, title of journal, volume number of the issue, pagenation, and year and month of publication. For example, volume number, Vol. 5, No. 1, is abbreviated as 5 (1). In the case of the issues combined, as Nos. 3 and 4, as follows: (3/4). The month of the year is transliterated as ordinal numbers from January, for examle, Oct. 1978, is shown as: (10, 1978).
6. Book review and review article come after the articles and are marked with R before the item number. The item number of the book which has been reviewed can be traced from the entry of each reviews.
7. Author's name of the foreign works translated into Japanese is transliterated using by *Kana* characters and the original spelling are shown in parantheses. Those translated items whose original authors are Russians, their names are transliterated as follows:
   А-A Б-B В-V Г-G Д-D Е-E Ё-E Ж-ZH З-Z И-I Й-I К-K Л-L М-M Н-N О-O П-P Р-R С-S Т-T У-U Ф-F Х-KH Ц-TS Ч-CH Ш-SH Щ-SHCH Ъ-" Ы-Y Ь-' Э-E Ю-IU Я-IA
8. Both cardinal and ordinal numbers in Japanese appeared in titles, for example, such number as: The five-year plan; Number one; Showa fifty-third Fiscal Year have all been standardized as Arabic figures.
9. As to the minutes of meetings or symposium, the general title of the meeting and the participants' names are listed.
10. Those items excluded in this bibliography are as follows:
    i) works on Marxism and communism having no substantial connection with Slavic and East European studies, and
    ii) items published in weekly magazines or newspapers.

Acknowledgements: The compilation of this bibliography would not have been possible without the assistance of many friends and colleagues and the utilization of various bibliographies such as, NDL's *Zasshi kiji sakuin*, The Association for Documentation in Economics' *Quarterly Bibliography of Economics* and so forth. Invaluable work was done by Muneyoshi Hasebe and Masaru Sasaki of Sapporo University.

分　類　表	Classification Scheme
0.　総記，書誌学	0.　General, Bibliogaraphy
1.　人文科学	1.　Humanities
1.1　哲学，宗教，思想〔史〕	1.1　Philosophy, Religion, Metaphysics
1.2　歴史	1.2　History
1.3　地理	1.3　Geography
1.4　個人研究，伝記	1.4　Biographical Studies
1.5　文学	1.5　Literature
1.6　言語	1.6　Linguistics
1.7　心理学，教育	1.7　Psychology, Education
1.8　芸術	1.8　Arts and Music
2.　社会科学	2.　Social Sciences
2.1　政治，軍事	2.1　Politics, Military Affairs
2.2　国際関係	2.2　International Relations
2.3　法律	2.3　Law
2.4　経済，統計	2.4　Economy, Statistics
2.5　経営，労働	2.5　Management, Labour
2.6　産業	2.6　Industry
2.7　金融，財政	2.7　Banking, Public Finance
2.8　社会，社会学	2.8　Social Condition, Sociology
3.　その他	3.　Miscellaneous

*
* *

目録作成にあたっては，特に国立国会図書館編『雑誌記事索引（人文・科学編）』（第30巻）[1]，経済資料協議会編『経済学文献季報』（第84/85，86，87号），『史学雑誌』（第86編），『ロシア史研究』（第27号），『ロシア手帖』（11号），出版ニュース社編『出版年鑑　1978年版』，『印刷カード速報』なども参照し直接現物に接し得ないものの採録につとめた。

なお一層充実した目録とするために，利用者各位の積極的なご批判を頂きたい。

当面，毎年1回，前年に発表された文献を収録するという形式で行ってゆく予定である。ぜひ，発表された図書，論文等を一部当センター宛ご恵贈下さるか，あるいは，その書誌的データをお知らせ下さるよう協力をお願いする。

1) この目録は，28巻より計算機による機械編纂がされた。機械化によって，論文の重出が豊富になったのは喜ばしいことである。しかし，電算機化する際には，手作業で索引化されるとき以上の細心の注意を払って入力データを作成しなければならない。入力データの処理に際しては，改善が望まれる点も多い。例えばページ数の記入方法が同じ雑誌にもかかわらず採録した号によって通しページでとられたり，各冊ごとのページでとられていること，通巻の号であったり，そうでなかったりといった採録者によるばらつきと思われる点。凡例によれば，発行日付は奥付によるということになっているが，実際はその点検作業を省略しその号の表紙等にある刊行年次をそのまま入れ，月を0表示ですましているため，実際の発行年とずれているといったことが散見された。これらは将来累積し，データベース化して一般に提供する際の致命的欠陥となると思われる。また処理システムとしてみたときは，重出している文献にそれぞれ別個の番号が与えられていて，同一文献であるかどうかは，一つ一つ照合しなければ識別出来ない。これはシステムデザインをしたものが書誌学的常識に欠けていることを示すものと思われる。次巻以降早急な改訂を願いたい点である。

松田　潤

0. 総記，書誌学

1 キシュ (Kiss, J.): ハンガリーの図書館，長倉美恵子訳，東京　日本図書館協会　1977. 156.
2 松田　潤編: ソ連・東欧研究者名簿　改訂版.〔札幌〕 北海道大学法学部附属スラブ研究施設 1977. 105.

---

3 千野栄一: ストラホフ図書館への招待. 学鐙 74 (5), 20-23 (5, 1977).
4 チュバリアン (Чубарьян, O.): クループスカヤと図書館事業 ——1920-30 年代におけるソビエト図書館運動，長島七穂訳注. 参考書誌研究 (14), 1-16 (3, 1977).
5 今井義夫: ソ連邦における歴史・文学研究所，図書館，文書館および博物館の現状——モスクワ，レニングラード，ヴィリニュスを訪れて. 工学院大学研究論叢 (15), 1-20 (12, 1977).
6 金子　健; 小林　昇: 日ソ図書館 (わが図書館を語る 22). 窓 (22), 51-55 (9, 1977).
7 小山久二郎: 回想 ——百科事典，ロシア文学出版に着手 (小山書店と私). 総合ジャーナリズム研究 14 (3), 76-85 (7, 1977).
8 美作太郎:「クニーガ」出版社のこと. 窓 (23), 1 (12, 1977).
9 宮島直機: ワルシャワの図書館 (世界の図書館 14). 学鐙 74 (12), 36-39 (12, 1977).
10 森安達也: ワルシャワの博物館. 窓 (21), 16-19 (6, 1977).
11 ロシア文学・思想文献一覧 (1976 年下半期). ロシア手帖 (11), 1-6 (12, 1977).
12 「ロシア史研究」(18 号-20 号) 総目次・ロシア史研究 (26), 101-103 (4, 1977).
13 1976 年のロシア・ソ連史関係文献. ロシア史研究 (26), 87-93 (4, 1977).
14 ソ連の図書館 (1-2)——図書館学教科書，藤野幸男訳. 現代の図書館 15 (1), 46-60; 15(3), 178-188 (3; 9, 1977).
15 高野　明: レーニン図書館のことども (世界の図書館 13). 学鐙 74 (11), 36-39(11, 1977).
R16 津田雄作; 塚本　博: Walker, G. D. M. 著，亀山芳子訳「ライブラリアンのためのロシア語」. 図書館界 29 (1), 29-30 (5, 1977)→〔'76-312〕.

追　補

17 ロシア文学・思想文献一覧 (1976 年上半期). ロシア手帖 (10), 1-10 (12, 1976).

参　照

〔895〕, 〔897〕, 〔973〕, 〔1219〕.

1. 人文科学

1.1 哲学，宗教，思想〔史〕

18 バーリン (Berlin, I.): 父と子——トゥルゲーネフと自由主義者の苦境，小池　銈訳，東京 みすず書房 1977. 112.
19 クレマン (Clément, O.): 東方正教会，冷牟田修二; 白石治朗訳 (文庫クセジュ 607). 東京 白水社 1977. 173.
20 ドゥチケ (Dutschke, R.); ヴィルケ (Wilke, M.) 編: 社会主義の条件，石堂清倫訳. 東京 三一書房 1977. 403.
21 金子幸彦編: ロシアの思想と文学——その伝統と変革の道. 東京 恒文社 1977. 542.

22 コシーク (Kosik, K.): 具体的なものの弁証法，花崎皋平訳. 東京 せりか書房 1977. 316.
23 ムイスリフチェンコ (Мысливченко, А. Г.): マルクス主義の人間概念，岩崎允胤訳. 東京 大月書店 1977. 232.
24 中野徹三；高岡健次郎；藤井一行編著: スターリン問題研究序説. 東京 大月書店 1977. 277.
25 高井寿雄: ギリシア正教入門. 東京 教文館 1977. 212.
26 田口貞夫: ロシア宗教思想史——宗教と社会主義. 東京 べりかん社 1977. 197, 3.
27 ゼーヴィン (Зевин, В. Я.); ゴリコフ (Голиков, Г. Н.): レーニンの理論と実践，社会主義協会編集部訳. 東京 社会主義協会出版局 1977. 262.

---

28 青山太郎: 国家・革命・教会——ベルジャーエフのロシア・インテリゲンチャ批判. 思想 (632), 47-66 (2, 1977).
29 土肥恒之: 分離派教徒の世界——R. O. Crummey, The Old Believers and the World of Antichrist によせて. 人文研究 (小樽商大) (53), 125-142 (3, 1977).
30 藤井一行: ベリンスキイにおける芸術の存在理由をめぐる諸問題. →〔21〕ロシアの思想と文学.
31 ————: 芸術における社会的責任と真実と自由 ——「ジダーノフ主義」とロシア革命的民主主義の伝統. 季刊科学と思想 (23), 81-99 (1, 1977).
32 藤田 整: 社会主義の現代的争点をめぐって. 現代と思想 (30), 222-227 (12, 1977).
33 古谷 功: ソビエトにおける正教会の復活. 世紀 (325), 52-54 (6, 1977).
34 今井義夫: ゲルツェンとカヴェーリン——40年代人の友情と訣別. →〔21〕ロシアの思想と文学.
35 石川郁男: チェルヌィシェフスキイの経済学——課題と性格. →〔21〕ロシアの思想と文学.
36 イワーノフ (Иванов, В. В.): 記号論の役割——人間とその共同体とを研究する上で，北岡誠司訳. 思想 (640), 24-39 (10, 1977).
37 岩淵慶一: 社会主義諸国における最近の哲学思想の動向——マルクス疎外論の受容と展開をめぐって (1-2). 立正大学文学部論叢 (57), 140-158; (58), 102-121 (1; 7, 1977).
38 小島 定: プレハーノフ研究の問題点——田中真晴氏のプレハーノフ論の批判的検討を中心にして. 名古屋大学法政論集 (72), 1-108 (11, 1977).
39 久保英雄: バクーニンの「政治」の概念——第1インターナショナル・ロシア人支部の思想と論理より. 現代思想 5 (9), 164-177 (8, 1977).
40 ————: 第1インターロシア人支部. 現代の眼 18 (6), 244-255 (6, 1977).
41 栗生沢猛夫: モスクワ第三ローマ理念考. →〔21〕ロシアの思想と文学.
42 ルカーチ (Lukács, G.): 「芸術と社会」序文・1967年 (上・下)，平井俊彦訳. 未来 (129), 2-8; (130), 27-33 (6-7, 1977).
43 真木実彦: 現代社会主義論と変革の課題. 現代と思想 (30), 228-237 (12, 1977).
44 宮田光雄: 反体制知識人の思想構造——東欧=ローベルト・ハーヴェマンの場合 (上). 法学 (東北大) 41 (3), 260-305 (10, 1977).
45 宮田光雄: もう一人のルカーチ——社会主義ハンガリーの「対話の精神」. 社会科学の方法 10 (7), 13-16 (7, 1977).
46 森安達也: イコン「キリストの黄泉降り」の典拠をめぐって. 外国語科研究紀要 24 (3), 1-50 (3, 1977).
47 長縄光男: 前期キレーエフスキイの思想——「改宗」の内的契機をめぐるひとつの仮説. →〔21〕ロシアの思想と文学.
48 長興 進: 雑誌「ヨーロッパ人」をめぐって. ヨーロッパ文学研究 (25), 120-143 (12, 1977).
49 中村喜和: 日本国白水境探求 ——ロシア農民の一ユートピアについて. →〔21〕ロシアの思想と文学.
50 二宮信親: ポーランドのカトリック. 世紀 (328), 88-95 (9, 1977).
51 小野 修: バートランド・ラッセルと対ソ予防戦争論. 広島平和科学 (1), 89-109 (1977).

52 尾上八郎：チェルヌィシェフスキーにおける知識人と道徳哲学．経済科学 24 (2)，1-24 (2, 1977).
53 プレハーノフ (Плеханов, Г. В.)：社会の経済的発展法則とロシアにおける社会主義の課題，南 碧山訳．無政府主義研究 (7)，55-67 (5, 1977).
54 酒井貴美子：初期ベルジャーエフの思想をめぐって——ベルジャーエフ，マルクス主義，新カント派．ヨーロッパ文学研究 (25)，163-187 (12, 1977).
55 左近 毅：バクーニンとネチャーエフ——第1インターナショナルへの波紋．→〔21〕ロシアの思想と文学.
56 ————：獄中のネチャーエフ (4)．無政府主義研究 (7)，41-54 (5, 1977).
57 ザントキューラー (Sandkühler, H. J.)：レーニンの弁証法的論理学の歴史的原理，浅野富美枝訳．季刊科学と思想 (24)，844-849 (4, 1977).
58 サルトル (Sartre, J-P.)：一国社会主義——「弁証法的理性批判』第2巻（未刊）から，加地永都子訳．展望 (224)，85-109 (8, 1977).
59 雀部幸隆：ロシア革命をめぐるマルクスとレーニンとの思想的交錯 (4)．現代と思想 (28)，234-251 (6, 1977).
60 佐々木基一：イデオロギーを越える真実．波 11 (12)，20-23 (12, 1977).
61 佐々木照央：農奴解放前夜におけるラヴロフの人格論．→〔21〕ロシアの思想と文学.
62 霜田美樹雄：ボゴミール派とキリスト教．早稲田社会科学研究 (17)，123-140 (12, 1977).
63 白倉克文：ラジーシチェフ「人間，その死と不死について」．→〔21〕ロシアの思想と文学.
64 スターリン主義とは何か——シンポジウム・スターリン主義の検討(1)：稲子恒夫；上島 武；斉藤 孝；中野徹三；藤井一行；藤田 勇；田口富久治．現代と思想 (30)，238-284 (12, 1977).
65 田村秀夫：ソヴェトにおけるモア研究．社会思想史研究 (1)，159-169 (12, 1977).
66 外川継男：ある分離派一家の三世代．えうゐ (5)，74-81 (11, 1977).
67 ————：ロシアとヨーロッパ——チャアダーエフの歴史哲学をめぐって．→〔106〕近代史における政治と思想.
68 テーケイ (Tökei, F.)：ルカーチとハンガリー文化，平井俊彦訳．現代思想 5 (2)，31-43. (2, 1977).
69 津田道夫：レーニンにおけるアナーキズム批判．思想の科学 (83)，62-64 (11, 1977).
70 鷲巣繁男：パニヒダ祈禱私感 (3)．えうゐ (4)，153-168 (3, 1977).
71 渡辺雅司：K・アクサーコフの保守的アナーキズム——そのナロード観に焦点をあわせて．えうゐ (5)，38-49 (11, 1977).
72 ————：ピーサレフの「リアリズム」における思考するプロレタリアートと民衆．→〔21〕ロシアの思想と文学.
73 ————：ロプーフ考——ロシア・ニヒリズムへの一つの視点．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9)，65-78 (10, 1977).
R74 岩淵慶一：人間主義的社会主義の哲学——カレル・コシーク著 花崎皋平訳「具体的なものの弁証法」．現代の理論 14 (5)，128-132 (5, 1977) →〔22〕.
R75 上田惟一：藤井一行著「社会主義と自由」．唯物論 (7)，211-213 (3, 1977) →〔'76-424〕.

追 補

76 今井義夫：「ロシア自由主義者」の誕生——カヴェーリンとチチェーリンの政治思想の形成をめぐって，一橋論叢 76 (3)，13-22 (9, 1976).
77 長縄光男：キレーエフスキーにおける「ナロード」の概念——訳語の問題に触れながら．一橋論叢 76 (3)，74-82 (9, 1977).
78 左近 毅：バクーニンの政治綱領——人類解放国際秘密結社綱領について．一橋論叢 76(3)，40-46 (9, 1976).

79 佐々木照央:「進歩」の思想とトルストイ——ナロード観をめぐる紹介. 一橋論叢 76 (3), 47-54 (9, 1976).
80 社会主義と文化 (座談会): 内村剛介; 川崎 浹; 刀禰矢 徹. 情況 (100), 15-28(11, 1976).
81 白倉克文: イリムスクへの旅——流刑人ラジーシチェフの最初の日々. 一橋論叢 76(3). 55-61 (9, 1976).
82 渡辺雅司: チェルヌィシェフスキーの過渡期論について. 一橋論叢 76(3), 97-103(9, 1976).

参 照

〔144〕, 〔245〕, 〔287〕, 〔288〕, 〔289〕, 〔375〕, 〔436〕, 〔441〕, 〔555〕, 〔626〕, 〔634〕, 〔645〕, 〔693〕, 〔694〕, 〔722〕, 〔957〕, 〔1175〕, 〔1188〕, 〔1193〕.

1.2 歴 史

83 秋岡家栄: 双頭のワシの国アルバニア (三省堂選書 26). 東京 三省堂 1977. 200.
84 アヴリッチ (Avrich, P.): クロンシュタット 1921, 菅原崇光訳. 東京 現代思潮社 1977. 316.
85 カー (Carr, E. H.): 一国社会主義——ソヴェト・ロシア史 1924-1926〔第2巻〕, 南塚信吾訳. 東京 みすず書房 1977. 413, 18.
86 現代のルーマニア, 野口晶子編. 東京 恒文社 1977. 211.
87 後藤脩博: シベリア幽囚記. 東京 日本学協会 1977. 207.
88 岩村登志夫: コミンテルンと日本共産党. 東京 三一書房 1977. 347.
89 革命60年のソ連, 朝日新聞外報部編. 東京 朝日新聞社 1977. 307.
90 金子俊男: 樺太1945年夏——樺太終戦記録. 東京 講談社 1977. 409.
91 勝野金政: 凍土地帯——スターリン粛清下での強制収容所体験記. 東京 吾妻書房 1977. 266.
92 川崎 敏: ヨーロッパ・ソビエト——歴史・自然・人文. 東京 古今書院 1977. 207.
93 木戸 蓊: バルカン現代史 (世界現代史 24). 東京 山川出版社 1977. 425.
94 菊地昌典編: ロシア革命論——歴史の復権. 東京 田畑書店 1977. 384.
95 清嶋正十: 凍土の下に——シベリア抑留記. 福岡 清嶋正十 1976. 217.
96 コスチェンコ (Костенко, В. П.): 捕われた鷲——バルチック艦隊壊滅記, 徳力真太郎訳. 東京 原書房 1977. 334.
97 森 義男: プチャーチンと下田. 下田 下田観行協会 1977. 409.
98 名須川溢男: 北方関係史「ロシア革命と岩手」(岩手高教組新書). 〔盛岡〕 10月革命60周年記念事業岩手県実行委員会 1977. 214.
99 新岡武彦: 樺太・北海道の古文化 (北方歴史文化叢書). 札幌 北海道出版企画センター 1977. 2冊.
100 西島有厚: ロシア革命前史の研究. 東京 青木書店 1977. 466.
101 西鶴定嘉: 樺太の歴史. 東京 国書刊行会 1977. 382, 35. 〔昭和16年刊の複製〕付: 樺太は日本のものである——その歴史的証明.
102 オツェテァ (Otetea, A.) 編: ルーマニア史, 鈴木四郎; 鈴木 学訳. 東京 恒文社 1977. 2冊.
103 リード (Reed, J.): 世界をゆるがした10日間, 小笠原豊樹; 原 暉之訳 (筑摩叢書). 東京 筑摩書房 1977. 329, 5.
104 ————: 世界をゆるがした10日間 (上・下) 松本正雄; 村山淳彦訳(新日本文庫). 東京 新日本出版社 1977. 2冊.
105 斎藤栄三郎: ソ連革命60年史. 東京 巌南堂書店 1977. 266.
106 柴田三千雄; 成瀬 治編: 近代史における政治と思想. 東京 山川出版社 1977. 505.

107 ソ連——21世紀への展望.〔東京〕 総合研究開発機構 1977. 52.
108 ソ連進歩の60年，ノーボスチ通信社編. 東京 恒文社 1977. 194.
109 ソビエト連邦科学アカデミー極東研究所：中国革命とソ連の顧問たち，毛里和子；本庄比佐子訳（国際問題新書）. 東京 日本国際問題研究所 1977. 231, 16.
110 素顔のソ連邦，講談社編. 東京 講談社 1977. 162.〔建国60周年記念〕.
111 サマーズ（Summers, A.）；マンゴールド（Mangold, T.）：ロマノフ家の最期——1918年7月16日に何が起こったか，高橋 正訳. 東京 パシフィカ 1977. 356.
112 高橋 治：派兵（4）——凍土の孤影. 東京 朝日新聞社 1977. 397.
113 高杉一郎：極光のかげに・新版（冨山房百科文庫 1）. 東京 冨山房 1977. 346.
114 フォン・ラウエ（Von Laue, T. H.）：セルゲイ・ウィッテとロシアの工業化，菅原崇光訳. 東京 勁草書房 1977. 376.
115 矢田俊隆編：東欧史 新版（世界各国史 13）. 東京 山川出版社 1977. 658.
116 米田治泰：ビザンツ帝国. 東京 角川書店 1977. 293.

---

117 相野洋三：7-10世紀ビザンツ=アラブ間の商業交渉について. オリエント 20（1），153-164（9, 1977）.
118 秋沢修二：10月革命60年と現代革命. 社会主義 （311），4-15, 53（11, 1977）.
119 秋月俊幸：幕末樺太の魯語通弁千葉弓雄のこと. えうろ （4），4-9（3, 1977）.
120 天野和男：クラーソフ家の子孫とイワン・ブーニン. 人文（京大） （23），69-86（3, 1977）.
121 青木克二：終戦5日後に始まった「樺太戦争」の惨. 月刊ペン 10（9），100-105（9, 1977）.
122 青木節也：「民族革命」の運命. →〔94〕ロシア革命論.
123 荒武鉄郎：1812年戦争と民族問題. 大阪外国語大学学報 （38），25-39（3, 1977）.
124 阪東 宏：ポーランド・マルクス主義者の第一世代——覚書. 歴史評論 （329），1-9（9, 1977）.
125 ベリンデイ（Berindei, D.）：独立の達成（1877）——ルーマニア史における決定的瞬間，歴史学研究編集部訳. 歴史学研究 （444），29-36（5, 1977）.
126 カー（Carr, E. H.）：現代史とロシア革命60年，河合秀和訳. 世界 （381），202-208（8, 1977）.
127 コンスタンティニッ（Constantiniu, E.）：ルーマニア人の歴史意識とルーマニア民族国家の形成. 歴史学研究 （441），18-26（2, 1977）.
128 絵葉書にみる尼港の惨劇. 歴史公論 3（11），5-8, 38（11, 1977）.
129 藤井和夫：ポーランド王国における工業都市の成立——ウッジ繊維工業地帯4都市の事例. 関西学院経済学研究 （10），59-73（12, 1977）.
130 藤本和貴夫：革命と国家. →〔94〕ロシア革命論.
131 ————：大戦の終結とソビエト・ロシア（第1次大戦後の世界の動向）. 歴史公論 3(11)，42-46（11, 1977）.
132 原初年代記（訳注）（11完），青木〔他〕訳. 古代ロシア研究 （11），1-32（1977）.
133 後藤文利：ウラルを越えて——私の終戦. 世界経済リポート （28），53-80（9, 1977）.
134 羽生三七：10月革命60周年に思う. 月刊社会党 （252），83-86（11, 1977）.
135 原 暉之：反ユダヤ主義とロシア・ユダヤ人社会——革命前ロシアの一側面. 思想 （642），22-36（12, 1977）.
136 ————：ロシア革命，シベリア戦争と朝鮮独立運動. →〔94〕ロシア革命論.
137 ————：ロシア社会史と「1914年8月」〔大会報告コメント〕. ロシア史研究 （26），34-41（4, 1977）.
138 ————：シベリア戦争（第1次大戦後の世界の動向）. 歴史公論 3(11)，39-42（11, 1977）.
139 播磨信義：ハンガリー・ソビエト共和国（1919年）におけるいわゆる「社会化」について. 山口大学教育学部研究論叢 第1部人文科学・社会科学 （26），55-70（3, 1977）.
140 日南田静真：S.パールマンのロシア革命・農民運動論. 経済学研究（北大） 27（1），233-250

(3, 1977).

141 細川 滋: 古代ロシア国家（キーエフ・ルーシ）の形成過程とその基本的性格. 歴史学研究（別冊), 84-93 (11, 1977).

142 飯田規和: ボルガの「船引き人夫」. 東京外国語大学論集 (27), 221-239 (1977).

143 池田博行: ロシアの船曳き労働者の歴史. 商学研究所年報（専修大） (2), 159-201(3, 1977).

144 ————: ロシア修道院経営の終焉. 専修大学社会科学研究所月報 (160), 1-16 (1, 1977).

145 インドワ (Индова, Е. И.); プレオブラジェンスキー (Преображенский, А. А.); ティホノフ (Тихонов, Ю. А.): 17・8世紀ロシアの民衆運動と絶対主義, 林 基訳. 専修人文論集 (19), 181-215 (6, 1977).

146 石戸谷重郎: 15世紀末-16世紀ロシアの領主直営地と農民賦役. 史学雑誌 86 (8), 73-94(8, 1977).

147 ————: 1550年法典第88条と16世紀後半ロシアの農民移転. 奈良教育大学紀要 26(1), 81-101 (11, 1977).

148 ————: 1649年法典と逃亡農民. 史学雑誌 86 (1), 1-32 (1, 1977).

149 石井規衛:「ネップ」初期研究——「商品交換体制」の成立をめぐって. 史学雑誌 86 (12), 1-44 (12, 1977).

150 伊藤昌太: 1916年連合国パリ会議とロシアの通商政策（上). 福島大学教育学部論集 29 (1), 1-22 (11, 1977).

151 革命60年——砂礫多き道（インタビュー):荒畑寒村; 隅谷三喜男. 思想 (642), 57-75 (12, 1977).

152 鹿島正裕: ハンガリー産業革命の政治的条件——社会発展の比較研究によせて. アジア経済 18 (4), 24-41 (4, 1977).

153 ————: 1919年のハンガリー社会主義——評議会国家とその国内政策. アジア経済 18(8), 30-46 (8, 1977).

154 加藤一郎: ロシア共産党史 (9-15). 月刊労働問題 (230), 82-88; (231), 108-113; (233), 110-115;(234); 116-121; (235), 100-105; (236), 104-109 (237), 98-103 (1-7, 1977).

155 ————: 左翼エス・エル党小史. →〔94〕ロシア革命論.

156 加藤勘十: ロシア革命とその頃の日本の社会運動. 月刊社会党 (252), 76-82 (11, 1977).

157 木戸 蓊: 民族の論理と階級の論理（第1次大戦後の世界の動向). 歴史公論 3 (11), 54-56 (11, 1977).

158 菊地昌典: ロシア革命と現代——序にかえて. →〔94〕ロシア革命論.

159 木村英亮: ロシア革命とトルコ系諸民族（第1次大戦後の世界の動向). 歴史公論 3 (11), 3 (11), 46-47 (11, 1977).

160 ————: ソビエト中央アジアにおける婦人解放. 歴史評論 (323), 89-90 (3, 1977).

161 木下広居: ロシア史と革命 (1). 創価法学 7 (2/3), 27-75 (12, 1977).

162 北川誠一: 13-15世紀のアルメニア語史料. 史朋 (6), 1-23 (4, 1977).

163 コッカ (Kocka, J.): 最近のマルクス主義的社会史に関する批判的分析——とくにドイツ民主共和国における社会史的傾向を考慮しつつ, 太田和宏訳. 経済論集（北海学園大） 25 (2), 125-163 (10, 1977).

164 小泉義勝: ロマノーソフの生涯と科学観——18世紀ロシア自然科学, 技術史の一側面 (1-2). 関西大学文学論集 27 (1), 47-70; 27 (2), 1-25 (9; 12, 1977).

165 郡山良光: 安政以前の日露国境問題. 鹿児島短期大学研究紀要 (19), 1-28 (2, 1977).

166 ————: ロシア側から見たラクスマンの対日交渉 (1). 鹿児島短期大学研究紀要 (20), 89-104 (10, 1977).

167 小山皓一郎: チェルケス考. えうる (4), 10-12 (3, 1977).

168 久保田恭平: 東シベリア総督ムラヴィエフの日本来訪. 日本歴史 (350), 27-44 (7, 1977).

169 倉持俊一：日本におけるロシア革命観．思想　(642)，97-104 (12, 1977).
170 黒沼凱夫：第1次世界大戦下の社会主義運動——ツィンメルワルト運動の成立史によせて (1-2完)．研究年報経済学（東北大）　39 (1)，31-44；39 (2)，79-95 (7；11, 1977).
171 増田冨寿：ロシア農奴解放令における「小領主」および「僕婢」規程について——誤訳と誤解の著しい一例．史観　(94)，5-14 (2, 1977).
172 松繩善三郎：露支協定に到る東支鉄道の利権回収と日本の対応．軍事史学　13(2)，32-44 (9, 1977).
173 南　碧山：チギリン事件におけるバクーニン主義者と農民．無政府主義研究　(7)，68-79 (5, 1977).
174 南塚信吾：ハンガリー社会民主党と農業問題——1890年代の「農業社会主義」をめぐって．歴史学研究　(444)，1-15 (5, 1977).
175 ————：歴史的展望の中での東欧経済——ベレンド　T．イヴァーン教授に学ぶもの．アジア経済　18 (11)，70-78 (11, 1977).
176 ————：東欧の民族と国家——「アウスグライヒ」とハンガリー．歴史学研究（別冊），3-15 (11, 1977).
177 村上　博：帝政ロシアの女子教育．金蘭短期大学研究誌　(7/8)，1-17 (2, 1977).
178 中井和夫：穀物をめぐる二つの道．→〔94〕ロシア革命論.
179 ————：ウクライナ革命における共産主義者——続・ウクライナ共産党の形成（上・下）．歴史評論　(327)，53-62；(328)，61-71 (7-8, 1977).
180 ————：1905年6月14日=戦艦ポチョムキン号の反乱．未来　(129)，1 (6, 1977).
181 ねずまさし：チンメルワルトとキーンタール——第1次大戦中の国際反戦会議．歴史評論 (322)，1-10 (2, 1977).
182 西島有厚：Walter Sablinsky「The Road to Bloody Sunday」について（ロシア社会の研究　3)．福岡大学研究所報　(29)，43-98 (3, 1977).
183 西川正雄：史料案内——コミンテルン第7回世界大会．歴史学研究　(446)，44-48 (7, 1977).
184 大畑　勝：第1次ロシア革命にいたるツァーリズムの農業・農民政策——ヴィッテの農業政策を中心に．福井大学教育学部紀要・第3部　社会科学　(27)，23-44 (12, 1977).
185 岡野恵美子：西欧派——「起訴状」論争を中心に．北大史学　(17)，37-47 (8, 1977).
186 奥田八二：ロシア10月社会主義革命の頃．社会主義　(311)，16-29 (11, 1977).
187 近江谷左馬之介：ロシア革命の国際的意義——近江谷左馬之介氏（「現代の世界」編集長）に聞く．月刊社会党　(252)，64-72 (11, 1977).
188 リヤザノフ（Рязанов, Д.)：共産主義者同盟——1847-1852年，福富正実訳・解説．阪南論集 13 (2)，79-108 (9, 1977).
189 ロシア社会の構造的特質と歴史変革のコース——和田春樹著「マルクス・エンゲルスと革命ロシア」をめぐって（1976年度大会共通論題報告）（シンポジウム），伊藤昌太〔他〕．西洋史研究　(6)，129-181 (1977).
190 斎藤治子：ギリシャにおける反ファシズム統一戦線．歴史評論　(330)，29-43 (10, 1977).
191 斎藤晨二：東シベリア，沿海州の中国系住民——その消長を追って．日本海域研究所報告 (9)，27-48 (10, 1977).
192 阪本秀昭：農村ソヴェト資料（1920年)——郷ソヴェト大会，郷ソヴェト執行委員会，村ソヴェトに関する統計資料．天理大学学報　(107)，100-112 (3, 1977).
193 ————：1921年のパヴォルジエにおける飢饉——その実情と原因をめぐって．天理大学学報 (110)，22-32 (9, 1977).
194 サハリンの朝鮮人（特集)：サハリンの特集にあたって（梶村秀樹)；戦後なきサハリン在留朝鮮人（風登多紀子)；広範な与論を（中村徳三郎)；資料　訴訟関係；資料　サハリンからの手紙．朝鮮研究　(162)，2-57 (1, 1977).
195 向坂逸郎：ソビエト革命60年に憶う．唯物史観　(18)，2-5 (10, 1977).

196 清水睦夫：チェルニャホーヴォ文化人の問題．古代文化 29 (5)，34-39 (5, 1977).
197 下斗米伸夫：ソビエトの歴史教育・研究の印象．ロシア史研究 (26)，42-47 (4, 1977).
198 進藤牧郎：現代チェコ人の歴史意識．歴史評論 (329)，10-26 (9, 1977).
199 ――――：オーストリア=ハンガリー二重帝国の成立――歴史的ベーメン国法の理念をめぐって．→〔106〕近代史における政治と思想.
200 進藤義彦：モンゴル・タタールのロシア支配．アジア研究所紀要 (4)，129-150 (12, 1977).
201 尚樹啓太郎：ビザンツ時代のラコニア．バルカン・小アジア研究 (3)，1-32 (3, 1977).
202 ――――：ビザンツと西欧――ビザンツから見た西欧との関係．歴史と地理 (260)，1-8 (5, 1977).
203 鈴木健夫：ロシア農奴解放における農民の「屋敷菜園地」用益問題．早稲田政治経済学雑誌 (252)，48-75 (10, 1977).
204 高田和夫：現代ソ連史学と絶対主義――絶対主義論争（1968-1972）の検討．歴史学研究 (450)，38-45 (11, 1977).
205 ――――：ロシア社会史における「1914年8月」の位置――ソルジェニーツィンの歴史観．ロシア史研究 (29)，15-33 (4, 1977).
206 ――――：ロシア資本主義成立期の労働運動――1885年モローゾフ争議をめぐって．土地制度史学 (74)，53-72 (1, 1977).
207 高橋 馨：メニシェヴィキ論．→〔94〕ロシア革命論.
208 ――――：ロシア革命における永続革命論争（7-12完）．現代思想 5 (2)，184-191；5 (4)，236-244；5 (8)，183-193；5 (9)，155-163；5 (10)，223-231；5 (13)，186-193 (2；4；7-9；12, 1977).
209 高橋 治；シベリア戦争について．思想 (642)，127-139 (12, 1977).
210 高橋清治：「グルジヤ問題」の史的展開．→〔94〕ロシア革命論.
211 ――――：革命・地域・民族――ザカフカスの革命の諸問題．→〔94〕ロシア革命論.
212 滝田 毅：1914年の「7月危機」におけるオーストリア=ハンガリー二重帝国の外交政策の転換――二つのメモランダムをめぐって．上智史学 (22)，53-76 (11, 1977).
213 田村紀雄：ロシア革命――日本民衆史からの照射――情報・象徴・神話・偶像の60年．季刊世界政経 (62)，128-143 (6, 1977).
214 立光隼人：ロシア・アメリカ会社の活動について．史叢 (20)，67-75 (3, 1977).
215 富岡次郎：ハンガリー蜂起とイギリス共産党．史林 60 (4)，1-33 (7, 1977).
216 鳥山成人：18世紀のバクーニン家．えうる (5)，70-73 (11, 1977).
217 和田春樹：革命60周年と現代．月刊社会党 (252)，83-86 (11, 1977).
218 ――――：Karl Marx and Revolutionary Russia. *Annals of the Institute of Social Science*（東大）(18)，94-125 (3, 1977).
219 ――――：歴史の中のエスエル党．思想 (642)，1-21 (12, 1977).
220 矢田俊隆：オーストリア・ハンガリー帝国の解体と Anschluss 問題――1918-19年のドイツ系オーストリア国の立場を中心に．西洋史学 (104)，1-24 (4, 1977).
221 ――――：1919年のオーストリア社会民主党とハンガリー・ソヴェト共和国の関係．北大法学論集 27 (3/4)，1-46 (3, 1977).
222 八重樫喬二：プガチョフ農民戦争における僭称問題によせて（上・下）．岩手史学研究 (61)，20-28；(62)，25-36 (5, 1976；5, 1977).
223 山本治夫：Koustantions-Kyrills・Michael-Methodios の伝統を如何に評価すべきか（ロシア社会の研究 3）．福岡大学研究所報 (29)，1-41 (3, 1977).
224 山内靖子：ロシア10月革命と「土地社会化法」．津田塾大学紀要 (9)，173-193 (3, 1977).
225 保田孝一：国家権力・共同体・人権．歴史学研究 (443)，19-31 (4, 1977).
226 横手慎二：革命と外交．→〔94〕ロシア革命論.

227　米川紀生：第1次オーストリア共和国の外相就任前の Otto Bauer. 新潟大学経済論集　(23), 51-84 (10, 1977).

R228　江口朴郎著作集によせて：坂垣雄三；今井清一；木谷　勤；倉持俊一；野沢　豊；宮地正人. 歴史学研究　(442), 27-36 (3, 1977).

R229　井上浩一：А. П. Кажлан; Социальный состав господствующего класса Византии XI-XIII вв. 史林　60 (4), 157-165 (7, 1977).

R230　林　忠行：矢田俊隆編「世界各国史 13　東欧史」(新版). 歴史学研究　(450), 63-64 (11, 1977→〔115〕.

R231　石戸谷重郎：国本哲男著「ロシア国家の起源」. 西洋史学　(104), 60-62 (4, 1977)→〔'76-51〕.

R232　菊池俊彦：Е. И. デレヴャーンコ著「黒龍江中流の靺鞨の遺跡」(Е. И. Деревянко; Мохвские памятники Среднего Амура). 史学雑誌　86 (2), 202-208 (2, 1977).

R233　木村英亮：エス・スイロフ著「歴史のページから——ロシア語読本」. 窓　(20), 56-57 (3, 1977).

R234　大津留厚：矢田俊隆編「新版東欧史」. 歴史評論　(329), 31-32 (9, 1977)→〔115〕.

R235　庄野　新：「革命ロシアと日本——第1回日ソ歴史学シンポジュウム記録」. 歴史学研究　(441), 48-52 (2, 1977).

R236　杉村貞臣：米田治泰「ビザンツ帝国」. 史林　60 (6), 153-158 (11, 1977)→〔116〕.

R237　高田和夫：ポクロフスキー，岡田宗司監訳「ロシア史」1-3. 歴史学研究　(441), 55-56 (2, 1977)→〔'76-57〕.

R238　————：田坂昂編訳，ロシア・ナロードニキ運動資料集　1・2「人民のなかへ」,「テロルと自由」. 歴史学研究　(445), 63 (6, 1977)→〔'76-4〕.

R239　上杉重二郎：中村賢二郎「統一戦線史序説 1914-1922 年」. 歴史学研究　(446), 54-58 (7, 1977)→〔'76-436〕.

R240　渡辺金一：プロノイア問題の現況——整理と展望. オリエント　20(1), 213-228 (9, 1977).

R241　山之内　靖：和田春樹著「マルクス・エンゲルスと革命ロシア」. 社会科学研究（東大）28(6), 320-353 (3, 1977).

R242　吉沢　南：柴田政義「人民民主主義の史的展開」上・下巻. 歴史評論　(329), 27-30 (9, 1977).

追　補

243　ロスメル (Rosmer, A.)：レーニンの下のモスクワ——革命の在りし日々に，浜田泰三；安部住雄訳. 東京　拓植書房　1976. 277.

244　相野洋三：ビザンツ——アラブ交渉史——648-965 年のキプロス史をめぐって. 関学西洋史論集　(6), 65-78 (12, 1976).

245　東田俊弘：ブルガリア国内におけるボーリス改宗（864 年）以前のキリスト教徒——特に殉教者の功績について. 関学西洋史論集　(6), 51-64 (12, 1976).

246　細川隆雄：ロシア革命前のシベリア開発とその先覚者達——シベリア開発の理念を求めて. 農林業問題研究　(44), 22-29 (9, 1976).

247　石戸谷重郎：17 世紀ロシア逃亡農民の社会経済史. 奈良教育大学紀要　25 (1), 39-60 (12, 1976).

248　菊池俊彦：シベリアの考古学研究を訪ねて. 北大史学　(16), 32-44 (7, 1976).

249　町田俊昭：ロシアから見た日露戦争. 日本歴史　(342), 34-48 (11, 1976).

250　松木栄三：9 世紀の東スラヴとアラブ史料. 一橋論叢　76 (6), 91-97 (12, 1976).

251　中川　融：レーニンとロシア革命 (1-4). 政治学論集（駒大）(3), 26-50; (4), 1-25; (5), 1-29; (6); 1-23 (2; 8, 1976; 3; 10, 1977).

252　中村喜和：「モスクワの 26 人の偽予言者」その他. 一橋論叢　76 (3), 104-106 (9, 1976).

253　中瀬寿一：ハンガリー史の時代区分——原始・古代からオーストリア・ハンガリー帝国の崩壊

まで，Chronology を中心に．大阪産業大学論集　社会科学編　(43)，26-55 (4, 1976).

254　中瀬寿一：両大戦期ハンガリー史の動向と時期区分 ——1917-1945 年の Chronology を中心に．大阪産業大学論集　社会科学編　(42)，1-24 (1, 1976).

255　大畑　勝：第1次ロシア革命にいたる自由主義の発展と農業・農民問題．福井大学教育学部紀要・第3部　社会科学　(26)，1-18 (12, 1976).

256　若松　寛：ロシア史料より見たグシ汗の事績．史林　59 (6)，42-69 (11, 1976).

R257　渡辺金一：ビザンツ理解への道——H. G. Beck の二点の近業．南欧文化　(3)，40-56 (9, 1976).

R258　浅野　明：P. Г. スクルィンニコフ「16 世紀ロシアにおける農奴制と賦役制度の形成」(P. Г. Скрынников ; Крепостниуестово и становление баршинной системы России в 16 в.). 歴史（東北史学会）(49)，62-72 (11, 1976).

R259　栗生沢猛夫：ハンス・ヨアヒム・トルケ「モスクワ国における国家に制約された社会——古ロシア支配制度におけるツァーリとゼムリャ．1613-1689 年」．一橋論叢　(76)，107-115 (9, 1976).

R260　ソ連邦東洋学研究所編「Oriental Studies in the USSR」，1975. 史苑　37 (1)，80-85 (12, 1976).

1.3 地　理

261　海上保安庁水路部：シベリア東岸水路誌．東京　海上保安庁　1977. 434.　シベリア東岸・クリリスキーオストロバ・サハリン沿岸書誌　第 201 号.

262　樺太　写真集，国書刊行会編．東京　国書刊行会　1977. 252.

263　樺太及北沿海州，成田与作；プロゾーロフ（Прозоров）著．東京　国書刊行会　1977　178, 242, 58.〔複刻合本〕.

264　岸田泰政：レニングラード便り．東京　泰流社　1977. 232.

265　大野東雲：樺太地誌．東京　国書刊行会 1977. 262.〔昭和 10 年刊の複製〕付：条約及境界劃定（東京地学協会編）.

266　末野　明：私の見た共産圏——東欧バス旅行より．豊中〔末野　明〕1976. 38.

267　玉貫光一：樺太博物誌　増補改訂．東京　国書刊行会　1977. 465.〔昭和 19 年刊の再刊〕参考文献　444-456.

268　牛丸幸也：ソビエト紀行——1976 年 7 月 7 日-15 日．能代　秋田木材通信社　1977. 207.

269　伊藤　満：東ドイツ見聞記（上）．書斎の窓　(268)，37-41 (10, 1977).

270　熊谷一男：ドイツ民主共和国紀行．未来　(129)，9-15 (6, 1977).

271　黒田信一郎：蒙古駆け足旅行．えうゐ　(4)，100-105 (3, 1977).

272　成田与作：樺太事情．→〔293〕樺太及北沿海州.

273　小野菊雄：「地理的環境」の概念をめぐって——ベ・エヌ・セメフスキーの見解を中心にして．歴史学・地理学年報（九大）(1)，97-118 (3, 1977).

274　プロゾーロフ（Прозоров）：北沿海州事情，東亜同文会編纂局訳．→〔293〕樺太及北沿海州.

275　斎藤茂太：ドナウ源流感傷旅行．文芸春秋　55 (11)，302-309 (11, 1977).

276　柴崎嘉之：ソ連の思い出．aff 農林省広報　8 (10)，38-41 (10, 1977).

277　鈴木重靖：ポーランドとハンガリーを訪ねて．東亜経済研究　46 (1)，101-114 (8, 1977).

278　田中かな子：シルクロードの文明をたずねて——文字を壁画が語るソグディアナの運命．窓　(20)，26-35 (3, 1977).

279　和田卓彦：モービリストとアンチモービリスト——大陸移動説とソ連の地学．窓　(20)，36-38 (3, 1977).

280 山口次郎：Запись поездин по Советскому Союзу. 京都産業大学論集 6 (2), 137-215 (5, 1977).

281 柳 富子：冬のモスクワから. 比較文学年誌 (13), 87-93 (3, 1977).

追　補

282 中村泰三：ソ連邦の地域問題についての一考察——大経済地域の社会・経済発展を中心として. 人文地理 28 (4), 1-26 (8, 1976).

283 ————：ソ連邦の地域概念と地域区分の原則——革命直後の時期を中心として. 人文研究 (大阪市大) 28 (2), 145-151 (10, 1976).

参　照

〔83〕, 〔630〕.

1.4 個人研究，伝記

284 モーガン (Morgan, M.)：レーニン——革命のリーダーシップ像，菅原崇光訳. 東京 番町書房 1977. 372, 9.

285 ロザンタール (Rosenthal, G.)：トロツキーの弁護人——歴史の闇のなかから，浜田泰三；安部住雄訳. 東京 拓植書房 1977. 381.

286 ルビンシュタイン (Rubinstein, A.)：華麗なる施律——ルビンシュタイン自伝，徳丸吉彦訳. 東京 平凡社 1977. 596.

287 向坂逸郎編著：レーニン研究入門. 東京 社会主義協会出版局 1977-78. 2冊.

288 和田春樹編：レーニン (世界の思想家 22). 東京 平凡社 1977. 252.

---

289 藤家壮一：キレーエフスキーのドイツ遊学. えうゐ (4), 74-82 (3, 1977).

290 池田大作：トルストイの「顔」(私の人物観 2). 潮 (213), 264-268 (2, 1977).

291 香山陽坪：グリャモフ教授の訃. 窓 (21), 1 (6, 1977).

292 菊地昌典：チューリヒ時代の人間レーニン. 波 11 (3), 22-23 (3, 1977).

293 三浦元俊：三浦元俊教授略歴 および業績表. 名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学 (21), iii-iv (3, 1977).

294 中村喜和：アファナーシエフ略伝. 窓 (21), 7-15 (6, 1977).

295 中田正敏：ゲ・イ・ウスペンスキー試論. ロシア史研究 (26), 48-64 (4, 1977).

296 布村一夫：ソビエトにおけるモルガン——「古代社会」100年のために. 窓 (23), 34-37 (12, 1977).

297 小川政邦：ベニョフスキー (1-2). 窓 (22), 45-50; (23), 38-43 (9; 12, 1977).

298 左近 毅：あるフォルクロリストの死——フヂャコーフ没後100年を記念して. えうゐ (4), 84-92 (3, 1977).

299 多田博一：ソビエト東洋学の発達——レイスネル教授の人と業績を中心に. →〔21〕ロシアの思想と文化.

300 高野 明：クルーゼンシュテールン——ロマンと成果 (1-3). 窓 (21), 32-37 (22), 30-37; (23), 19-24 (6; 9; 12, 1977).

301 滝沢一郎：B. B. ヴィノグラードフについて. 防衛大学校紀要 (34), 65-79 (3, 1977).

302 トガン (Togan, Z.)：ゼキ・ヴェリディ・トガン自伝 (1-3), 小山皓一郎訳, 山内昌之訳註; (4), 小山皓一郎訳, 山内昌之; 小松久男訳註. 史朋 (4), 1-14; (5), 14-21; (6), 9-23; (7), 25-32 (4; 10, 1976; 4; 10, 1977).

303 上杉重二郎：1921年夏におけるクララ・ツェトキンとレーニン. 北海道大学教育学部紀要 (30), 91-100 (10, 1977).

304 和田敏雄：和田敏雄教授略歴および研究業績. 拓殖大学論集 (110/111), 2 (3, 1977).

305 安平哲二：安平哲二先生履歴，著作目録．経済と経済学 (39)，2-6 (3, 1977).
R306 井上紘一：加藤九祚「天の蛇——ニコライ・ネフスキーの生涯」．えうる (4)，13-15 (3, 1977) →〔'76-48〕.

追　補

307 石山正三：石山正三氏年譜．ロシア手帖 (10)，30 (12, 1976).
308 金子幸彦：名誉教授金子幸彦略歴；名誉教授金子幸彦著作目録．一橋論叢 76 (3)，116-123 (9, 1976).
309 小松勝助：久保二郎教授．神戸外大論叢 27 (5)，1-3 (11, 1976).
310 久保二郎：凡人の歩み．神戸外大論叢 27 (5)，121-126 (11, 1976).
311 ————：久保二郎氏の著書．論文目録．神戸外大論叢 27 (5)，127 (11, 1976).
312 水野忠夫：野崎韶夫先生との出会い．ヨーロッパ文学研究 (24)，159-163 (12, 1976).
313 中村白葉：中村白葉氏年譜．ロシア手帖 (10)，28-30 (12, 1976).
314 直野　敦：ルーマニアの文人政治家ディミトリェ・カンテミール (1673-1723) について．一橋論叢 76 (6)，70-76 (12, 1976).

参　照

〔18〕，〔164〕，〔340〕，〔349〕，〔354〕，〔360〕，〔385〕，〔410〕，〔594〕，〔627〕，〔640〕，〔641〕.

1.5 文　学

315 アファナーシェフ (Афанасьев, A. H.) 編：ロシア滑稽譚，中村喜和訳．東京　筑摩書房 1977. 242.
316 ————：ロシア民話集——アファナーシェフ民話集　1-5，中村白葉；米川正夫訳（古典文庫）．東京　現代思潮社　1977. 5冊.〔大正15年刊「世界童話大系」からの複製〕.
317 アフマトワ (Ахматова, A. A.)：念珠抄，中山省三郎訳．東京　人間の星社　1977. 61.
318 アクショーノフ (Аксёнов, B.)：星の切符．木村　浩訳．(集英社文庫)．東京　集英社　1977.
319 ベールイ (Белый, A.)：銀の鳩，川端香男里訳．東京　講談社　1977. 342.
320 ダレル (Darel, S)：雪のなかの雀——シベリア流刑地の少女の手記，佐藤高子訳．(Hayakawa nonfiction)．東京　早川書房　1977. 276.
321 ディーモフ (Dimov, D.)：タバコ　第2部，松永緑弥訳（東欧の文学）．東京　恒文社　1977. 437.
330 ドストエフスキー (Достевский, Ф. M.)：ドストエフスキー小説全集　8——悪霊，小沼文彦訳．東京　筑摩書房　1977. 713.
331 ————：ドストエフスキー小説全集　9——未成年，小沼文彦訳．東京　筑摩書房　1977. 584.
332 ————：ドストエフスキー小説全集　10——カラマーゾフの兄弟，小沼文彦訳．東京　筑摩書房　1977. 867.
333 ————：罪と罰，小沼文彦訳 (Chikuma Classics)．東京 筑摩書房　1977. 371.
334 エディゲイ (Edigey, J.)：顔に傷のある男，深見　弾訳（世界ミステリシリーズ）．東京　早川書房　1977. 202.
335 エリアーデ (Eliade, M.)：ムントゥリャサ通りで，直野　敦訳．東京　法政大学出版局 1977. 174.
336 フチーク (Fučik, J.)：絞首台からのレポート，栗栖　継訳（岩波文庫）．東京　岩波書店 1977. 350.

337 ゴーゴリ (Гоголь, Н. В.): ゴーゴリ全集 1——ガンツ・キュヘリガールテン; ディカーニカ近郷夜話, 太田正一; 中村喜和; 青山太郎訳. 東京 河出書房新社 1977. 436.
322 ————: ゴーゴリ全集 2——ミールゴロド, 服部典三; 小平 武訳. 東京 河出書房新社 1977. 397.
323 ————: ゴーゴリ全集 4——戯曲, 倉橋 健; 野崎韶夫訳. 東京 河出書房新社 1977. 467.
324 ————: ゴーゴリ全集 6——死せる魂 第2部, 中村 融; 灰谷慶三訳. 東京 河出書房新社 1977. 459.
325 ————: ゴーゴリ全集 7——書簡, 横田瑞穂〔他〕訳. 東京 河出書房新社 1977. 396.
326 ————: 死せる魂 上・中・下, 平井 肇; 横田瑞穂訳 〔改訳〕(岩波文庫), 東京 岩波書店 1977. 3冊.
327 ゴーリキー (Горький, М.): ゴーリキー戯曲集 3, 中島とみ子訳. 東京 早稲田大学出版部 1977. 470.
328 イリフ (Ильф, И.); ペトロフ (Петров, Е.): 十二の椅子, 江川 卓訳 (世界ユーモア文庫 2), 東京 筑摩書房 1977. 366. 〔新装版〕.
329 河上徹太郎: わがドストイエフスキー. 東京 河出書房新社 1977. 258.
338 小沼文彦: ドストエフスキー, 東京 日本基督教団出版局 1977. 276.
339 蔵原惟人: ロシア革命と文学——ロシア・ソビエト文学の基調. 東京 光和堂 1977. 526.
340 倉田保雄: エリセーエフの生涯——日本学の始祖 (中公新書). 東京 中央公論社 1977. 231.
341 マヤコーフスキー (Маяковский, В. В.): ウラジーミル イリーチ レーニン——叙事詩, ウサミ・ナオキ訳 (国民文庫). 東京 大月書房 1977. 256.
342 マーリヤ・マリョーヴナ——ロシア民話, 遠藤恭介; 村辺 英共訳. 上田 遠藤恭介 1976. 44.
343 マリ (Murry, J. M.): ドストエフスキー, 山室 静訳. 東京 泰流社 1977. 300.
344 中村喜和; 灰谷慶三; 島田 陽: ロシア文学案内 (世界文学シリーズ). 東京 朝日出版社 1977. 400. 翻訳文献 研究文献: 315-350.
345 日本近代文学大事典 4——事項, 日本近代文学館編. 東京 講談社 1977. 544.
346 オレーシャ (Олеша, Ю. К.): 羨望, 木村 浩訳 (集英社文庫). 東京 集英社 1977. 206.
347 オズ (Oz, A.): わたしのミハエル, 村田靖子訳 (海外純文学シリーズ 15). 東京 角川書房 1977. 261.
348 パステルナーク (Пастернак, Б. Л.): ジェーニャ・リュヴェルス, 工藤正広訳. 東京 白馬書房 1977. 165.
349 佐藤清郎: ツルゲーネフの生涯. 東京 筑摩書房 1977. 268.
350 サビンコフ (Савинков, Б. Б.): 夢幻の人びと——わが友テロリストたちよ, 中田 甫訳. 東京 白馬書房 1977. 254.
351 世界文学全集 37, 五木寛之〔等〕編; ドストエフスキー——罪と罰, 江川 卓訳. 東京 学習研究社 1977. 638.
352 世界文学全集 44; ドストエフスキー——未成年, 北垣信行訳. 東京 講談社 1977. 711. 参考文献・主要作品解題・年譜, 北垣信行編著: 700-717.
353 世界の文学 4. 東京 集英社 1977. 544.
354 ソルジェニーツィン (Солженицын, А. И.): チューリヒのレーニン, 江川 卓訳. 東京 新潮社 1977. 266.
355 ————: 自由への警告, 染谷 茂訳. 東京 新潮社 1977. 173.
356 ————: 収容所群島——1918-1956 文学的考察 5-6, 木村浩訳. 東京 新潮社 1977. 2冊.
357 ————: ソルジェニーツィン・アルバム, 江川 卓訳. 東京 新潮社 1977. 88.
358 ————: ソルジェニーツィン小説集, 小笠原豊樹訳 (河出海外小説選 12). 東京 河出書

房新社　1977. 246.

359 ソビエトの昔ばなし，宮川やすえ編（旺文社文庫）. 東京　旺文社　1977. 298.

360 トルスタヤ（Толстая, Т. Л.）: トルストイ——娘のみた文豪の生と死，木村　浩；関谷苑子訳. 東京　TBS・ブリタニカ　1977. 321.

361 トルストイ（Толотой, Л. Н.）: 復活，米川正夫訳（Chikuma Classics）. 東京　筑摩書房　1977. 515.

362 ————: 火をそのままにしておくと消せなくなる，小沼文彦訳. 東京　女子パウロ会　1977. 207.

363 内村剛介: 定本　生き急ぐ——スターリン獄の日本人. 東京　国文社　1977. 220.

364 ヴォイノーヴィチ（Войнович, В. Н.）: 兵士イワン・チョンキンの華麗なる冒険，安井侑子訳. 東京　パシフィカ　1977. 288.

365 ザドルノフ（Задорнов, Н.）: 北から来た黒船，西本　昭訳. 東京　朝日新聞社　1977. 461.

---

366 アクショーノフ（Аксёнов, В. П.）:「パパ，なんて読むの！」，安井侑子訳（現代ロシアの短編）. 婦人之友　71 (9), 198-208 (9, 1977).

367 安藤　厚: 悲劇から神話へ——Вяч. イワノフのドストエフスキイ研究について. ロシヤ語ロシヤ文学研究　(9), 52-64 (10, 1977).

368 ————: マルク・ヴォロホフとネチャーエフ——В. Д. スパソーヴィチのネチャーエフ観をめぐって. 外国語科研究紀要　24 (3), 51-63 (3, 1977).

369 新谷敬三郎: 日本近代文学とドストエフスキー. →〔345〕日本近代文学大事典　4.

370 浅岡宣彦: プーシキンの「駅長」について. 一橋論叢　78 (1), 53-70 (7, 1977).

371 ブローク（Брок, А.）: ブローク詩抄 (4)，小平　武訳. えうゐ　(5), 32-37 (11, 1977).

372 ————: 復讐 (1)，若林大鬼智訳. えうゐ　(4), 50-54 (3, 1977).

373 ブリューソフ（Брюсов, В.）: レーニンの「党の文学」論批判，江川　卓訳. 新日本文学　32 (7), 101-107 (7, 1977).

374 ブルガーコフ（Булгаков, М. А.）: 巨匠とマルガリータ，水野忠夫訳. →〔353〕世界の文学　4.

375 チューシナ（Чухина, Л. А.）: ドストエフスキーの宗教哲学的探究における信仰・無信仰の問題，井尻良夫訳. 桃山学院大学人文科学研究　12 (2), 103-126 (3, 1977).

376 江川　卓: スメルジャコフの「性」(1). ロシア手帖　(11) 17-28 (12, 1977).

377 藤沼　貴: 農民ボンダレフの著作——「ことば」の分立，共有，変形の過程. ヨーロッパ文学研究　(25), 144-162 (12, 1977).

378 ゴーゴリ（特集）: ゴーゴリの笑い，その他（横田瑞穂）；ゴーゴリの呪縛——ゴーゴリ論の序（青山太郎）；えがかれなかった女（小島信夫）；幾つかの問題（後藤明生）；旅の出会い——ゴーゴリ，ホフマン，カフカ（A. Seghers 著，森田　弘訳）. 文芸　16 (2), 240-285 (2, 1977).

379 グレコワ（Грекова, И.）: 街灯のしたで（1-2完），安井侑子訳（現代ロシアの短編）. 婦人之友　71 (10), 201-209；71 (11), 184-192 (10-11, 1977).

380 原　卓也: フョードル・クジミッチ. ロシア手帖　(11), 13-16 (12, 1977).

381 ————: 日本近代文学とゴーリキー. →〔345〕日本近代文学大事典　4.

382 長谷川吉弘: 太宰治とプーシキン. 国文学　解釈と鑑賞　42 (14), 113-115 (12, 1977).

383 東　専一郎: 救済の根拠——「罪と罰」をめぐって. 理想　(531), 66-84 (8, 1977).

384 平野嘉彦: プラハ抄——トポグラフィもしくは幻想，平野嘉彦訳編. 同志社外国文学研究　(18), 159-180 (10, 1977).

385 法橋和彦: トルストイを語る. ロシア・ソビエト研究　(11), 33-65 (3, 1977).

386 市原初男: ゴーリキイの鬼火. えうゐ　(5), 97-100 (11, 1977).

387 ————: ゴーリキイと私——こころの風土記. えうゐ　(4), 130-133 (3, 1977).

388 出　かず子：「ニヒリスト」バザーロフ．実存主義　(80)，54-65 (4, 1977).
389 ————：詩人レールモントフの最後の三日間．えうゐ　(4)，42-49 (3, 1977).
390 糸川紘一：「白痴」と「黙示録」(1)．えうゐ　(4)，34-40 (3, 1977).
391 貝沼一郎：露訳「井原西鶴集」を読んで．えうゐ　(5)，116-120 (11, 1977).
392 ————：ヴェ・マルコワ女史の「枕草子」のロシア語訳について．　文化と言語　10 (2)，107-115 (3, 1977).
393 金田　晋：ローマン・インガルデンの文学理論の成立事情とその意義．地域文化研究　(2)，229-249 (3, 1977).
394 カラムジン (Карамзин, Н. М.)：ロシア人旅行者の手紙，松井俊和訳．札幌商科大学・札幌短期大学論集　人文編　(21)，249-268 (11, 1977).
395 笠井　清：三人のロシア文学者．えうゐ　(4)，126-129 (3, 1977).
396 金子幸彦：デュマ・ペールとロシア．学鐙 74 (5)，16-19 (5, 1977).
397 ————：ジナイーダ・ヴォルコンスカヤ（ろしや文学閑話　7)．窓　(20)，39-45(3, 1977).
398 ————：青銅の騎士（ろしや文学閑話　8)．　窓　(21)，43-49 (6, 1977).
399 金本源之助：ロシアのフォリクロール・ノート．窓　(20)，2-6 (3, 1977).
400 川端香男里：ロシア・ロマン主義をめぐって．文学　45 (10)，151-159 (10, 1977).
401 川口久雄：芍薬の花——「エリセーエフ聞書」序章．季刊芸術　11 (2)，88-104 (4, 1977).
402 ————：芍薬の花——「エリセーエフ聞書」抄 (2)．季刊芸術　11 (4)，78-94 (10, 1977).
403 川崎隆司：プーシキン抒情詩の成り立ち——国民詩人とは何か．→〔21〕ロシアの思想と文学.
404 川崎　浹：ドストエフスキィにおけるゴシックの方法と精神に関する一考察．早稲田大学大学院文学研究科紀要　(22)，67-82 (2, 1977).
405 ————：日本近代文学とアルツィバーシェフ．→〔345〕日本近代文学大事典　4.
406 亀井秀雄：日本近代文学とシェストフ．→〔345〕日本近代文学大事典　4.
407 カザコフ (Казаков, Ю. П.)：パンの匂い，安井侑子訳（現代ロシアの短編)．　婦人之友　71 (8)，187-192 (8, 1977).
408 菊地昌実：黄金時代の夢から——ドストエフスキー，シオラン，カミュ．えうゐ　(4)，30-33 (3, 1977).
409 木村　浩：日本近代文学とエレンブルグ．→〔345〕日本近代文学大事典　4.
410 小泉義勝：ロシア人からみた夏目漱石，　川端康成，　安部公房の文学．　関西大学文学論集 26(2)，1-21 (2, 1977).
411 小島信夫：答えられぬ質問．潮　(214)，378-397 (3, 1977).
412 ————：妻への手紙．潮　(217)，380-399 (6, 1977).
413 小松勝助：国際革命作家同盟（モルプ）とゴーリキー．神戸外大論叢　28(2)，1-17(7, 1977).
414 久保英雄：「悪霊」とネチャーエフ．ロシア史研究　(26)，2-14 (4, 1977).
415 工藤正広：ロシア紀行——連作から．えうゐ　(4)，112-120 (3, 1977).
416 工藤精一：「罪と罰」形成過程の受難．関西大学文学論集　26 (3)，1-23 (3, 1977).
417 工藤精一郎：削られたソーニャについて．ロシア手帖　(11)，7-10 (12, 1977).
418 工藤幸雄：フィツォフスキのこと．文学　45 (10)，100-104 (10, 1977).
419 草鹿外吉：10月革命と作家たち——マヤコーフスキィの作品をめぐって．民主文学　(144)，111-118 (11, 1977).
420 ————：ソルジェニーツィン以後——今日のソ連の小説．民主文学　(136)，101-113 (3, 1977).
421 桑野　隆：大道芸とアヴァンギャルド（バフチーン・ノート　2)．　未来　(126)，16-23 (3, 1977).
422 ————：ヴイゴツキイとバフチーン．窓　(23)，10-13 (12, 1977).
423 ————：笑いと多言語（バフチーン・ノート　1)．未来　(124)，2-8 (1, 1977).

424 レヴィ=ストロース (Lévi-Strauss, C.): ヤーコブソンの講義——「音と意味についての六章」への序, 花輪 光訳. みすず (211), 29-38 (10, 1977).

425 松井俊和: プーシキン「ドゥブロフスキー」について. 札幌商科大学・札幌短期大学論集 人文編 (21), 143-160 (11, 1977).

426 松川秀郎: ロシア文学の流れ——古代より近代的ロシア文学創成期まで. 外国学研究 (5), 161-181 (3, 1977).

427 松本忠司: ゴーリキイの詩作 (4). えうゐ (5), 101-109 (11, 1977).

428 村松定孝: 思い出のエリセーエフ. 学苑 (449), 37-40 (5, 1977).

429 村田郁夫: ドネライティス「四季」(3). 東京経済大学人文自然科学論集 (46), 161-241 (9, 1977).

430 中本信幸: 泉鏡花とレフ・トルストイ——鏡花「日本橋」の成立とトルストイ「神父セルギイ」をめぐって. 人文学研究所報 (12), 93-117 (6, 1978).

431 中村健之介: ドストエフスキーあれこれ (4) ——ドストエフスキーの手紙あれこれ (改題). えうゐ (5), 57-70 (11, 1977).

432 ——: ドストエフスキーのユートピア——断章をめぐるマージナル・ノート. 文学 45 (12), 74-95 (12, 1977).

433 直野 敦: ドストエーフスキーとディケンズ——「虐げられた人々」をめぐって. →〔21〕ロシアの思想と文学.

434 根本茂男: ドストエフスキー私観. ちくま (101), 28-32 (9, 1977).

435 小船井文司: キリルとメトディ (2). バルカン小アジア研究 (3), 87-94 (3, 1977).

436 小田切秀雄: 日本近代文学とプレハーノフ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.

437 大橋 渉: ミュンヘンからペテルブルクへ——「即興詩人」グラチア像とレイヒテンバルクスキー公爵と. 窓 (22), 17-25 (9, 1977).

438 桶谷秀昭: 「悪霊」論. 文芸 16 (6), 236-250 (6, 1977).

439 ——: 続「悪霊」論. 文芸 16 (7), 184-203 (7, 1977).

440 大久保純一郎: 漱石とドストエフスキーの小説 (3-5). 心 30 (1), 79-90; 30 (2), 80-89; 30 (6), 81-100 (1-2; 6, 1977).

441 大沢正道: 日本近代文学とクロポトキン. →〔345〕日本近代文学大事典 4.

442 大谷洛峰: アンゲルス・シレシウス——最終四事実の具体的描写. 彦根論叢 (185/186), 275-298 (10, 1977).

443 パウストフスキイ (Паустовский, К. Г.): 内気な心, 安井侑子訳 (現代ロシアの短編). 婦人之友 71 (6), 199-208 (6, 1977).

444 ——: 風の薔薇, 安井侑子訳 (現代ロシアの短編). 婦人之友 7 (7), 201-220 (7, 1977).

445 佐々木 彰: 二葉亭四迷「わからずや」私記——日本におけるツルゲーネフのひとこま. 窓 (22), 2-6 (9, 1977).

446 佐藤貞雄: レールモントフの「仮面舞踏会」. 早稲田大学大学院文学研究科紀要 (別冊 3). 133-147 (3, 1977).

447 ——: レールモントフをめぐる断章——母性への渇望. えうゐ (5), 110-115 (11, 1977).

448 佐藤清郎: チェーホフの故地へ——すぐりと土間と青い海. ちくま (103), 8-9 (11, 1977).

449 佐藤靖彦: ブィリーナにおける「父子闘争」. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9), 1-13 (10, 1977).

450 沢崎洋子: トルストイの宗教とわたし. えうゐ (5), 82-90 (11, 1977).

451 清水 正: 初期作品に見るドストエフスキー. 日本大学芸術学部紀要 (7), 28-41 (12, 1977).

452 相馬守胤: レーニンにおけるシチェドリン. 未来 (127), 43-47 (4, 1977).

453 ——: シチェドリンと「仲裁者」——トルストイとの往復書簡をめぐって. 文化と言語 10 (2), 91-106 (3, 1977).

454 スタロバンスキー (Starobinski, J.): カフカとドストエフキー，西沢文昭訳. エピステーメー 3 (2), 71-83 (2, 1977).
455 高橋　功: かわった医師たち (2)——アントン・チェーホフ. 心 30 (1), 71-78 (1, 1977).
456 高橋勝之: 第3次「ロシア文学」と蔵原惟人. 窓 (21), 24-31 (6, 1977).
457 田辺佐保子:「コロムナの家」の解釈. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9), 40-51 (10, 1977).
458 田中豊実: 母なるルーシ——「イーゴリ遠征譚」私観. えうゐ (4), 62-65 (3, 1977).
459 田中泰子: マヤコーフスキイの詩「汽車で」(Еду) について考えたこと. ロシア・ソビエト研究 (11), 11-32 (3, 1977).
460 谷　耕平: あれやこれ——私のロシア文学事始. 窓 (22), 11-16 (9, 1977).
461 ————: グマニースト・ウチョーヌイ. 窓 (20), 1 (3, 1977).
462 ————: 日本近代文学とプーシキン. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
463 ————: 日本近代文学とレールモントフ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
464 外川継男: バーリンのツルゲーネフ論. えうゐ (4), 66-73; 92 (3, 1977).
465 ————: エリセーエフの手紙. えうゐ (5), 122-126 (11, 1977).
466 遠丸　立: 無政府主義サークルとドストエフスキイ——ペトラシェフスキイ・サークルをめぐって. 無政府主義研究 (7), 2-16 (5, 1977).
467 内田道雄: 太宰治のドストエフスキー. 国文学 解釈と鑑賞 42 (14), 110-112 (12, 1977).
468 内村剛介: まじめなおふざけ——オクジャーワのパロディと現代文学過程. えうゐ (5), 13-21 (11, 1977).
469 和久利誓一: エセーニン・ノート——「黒い男」を中心に. えうゐ (5), 4-12 (11, 1977).
470 渡辺哲也: ゴーゴリの晩年. えうゐ (5), 50-56 (11, 1977).
471 ————: 喜劇「検察官」ノート. えうゐ (4), 23-29 (3, 1977).
472 ヴィトキェヴィッチ (Witkiewicz, S. I.): 狂人と尼僧——あるいは——災いは災いを呼ぶ. 三幕四場の短編劇，工藤幸雄訳・解説. 新劇 (296), 158-182 (12, 1977).
473 山田吉二郎: ブロークの英知. えうゐ (4), 55-61 (3, 1977).
474 柳　富子: 日本近代文学とトルストイ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
475 ————: 日本近代文学とチェーホフ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
476 安田保雄: 日本近代文学とツルゲーネフ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
477 安井侑子: 現代ロシアの吟遊詩人ふたり. えうゐ (5), 22-31 (11, 1977).
478 ————: 幻想の都市ペテルブルグ (1)——文学的イメージの変遷. えうゐ (4), 16-22 (3, 1977).
479 安村仁志: トルストイと現代. 中京社研 (5), 181-202 (3, 1977).
480 矢沢英一: チェーホフの不幸な人物たち——焚火をかこむ人々. えうゐ (5), 91-96 (11, 1977).
481 横田端穂: 日本近代文学にあたえたロシア文学の影響. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
482 ————: 日本近代文学とゴーゴリ. →〔345〕日本近代文学大事典 4.
483 ザミャーチン (Замятин, Е. И.): われら，小笠原豊樹訳. →〔353〕世界の文学 4.
R484 江頭彦造:「露滴集」の風味——「露滴集」小沢政雄訳詩集. ソフィア 26 (2), 184-187 (7, 1577) →〔'76-163〕.
R485 井桁貞義:「評伝・ロシアの作家たち」. 窓 (21), 62-64 (6, 1977) →〔'76-146〕.
R486 箕浦達二:「ドストエフスキーと妻アンナとの往復書簡集」. 窓 (23), 48-51 (12, 1977).
R487 大木昭男: 池田健太郎・草鹿外吉編「レールモントフ選集」. 民主文学 (135), 117 (2, 1977) →〔'76-158〕.
R488 ————: 蔵原惟人「ロシア革命と文学」. 民主文学 (145), 139 (12, 1977) →〔339〕.

追　補

489 エリセーエフ (Елисеев, С. Г.): 赤露の人質日記 (中公文庫). 東京 中央公論社 1976. 182.

490 江川　卓: スメルジャコフと「ラザロの歌」. ロシア手帖 (10), 22-28 (12, 1976).

491 川崎隆司：プーシキン詩の音律について．一橋論叢 76 (3)，23-39 (9, 1976).
492 木村 崇：ワジムの悪魔的性格．中京大学教養論叢 17 (3)，719-759 (12, 1976).
493 小松勝助：Тургенев の「Воспоминания о Шевченке」について．神戸外大論叢 27 (5)，5-24 (11, 1976).
494 松本忠司：「どん底」についての走りがき的覚書．人文研究（小樽商大） (52)，43-62 (12, 1976).
495 松本知子：初期ギッピウスについて．ヨーロッパ文学研究 (24)，131-150 (12, 1976).
496 宮島 隆：ドイツ民主共和国の文学と Ch. ヴォルフ．九州工業大学研究報告 人文・社会科学 (24)，31-43 (3, 1976).
497 水野忠夫：事物の反乱——ロシア未来主義の出発．ロシア手帖 (10)，11-14 (12, 1976).
498 直野 敦：プーシキン「大尉の娘」における語り手．一橋論叢 76 (3)，69-73 (9, 1976).
499 中村喜和：ギリシヤ頭巾の謎．一橋論叢 76 (6)，38-49 (12, 1976).
500 安村仁志：トルストイと神——「懺悔」の分析を終えて．中京大学教養論叢 17 (3)，761-792 (12, 1976).

参 照

〔205〕，〔281〕，〔290〕，〔307〕，〔308〕，〔309〕，〔310〕，〔311〕，〔312〕，〔313〕，〔507〕，〔556〕.

1.6 言 語

501 フェルドマン=コンラド（Фельдман-Конрад, Н. И.）編：和露学習字典 増訂2版．モスクワ ロシア語出版所 1977. 679.
502 井桁貞敏編：コンサイス露和辞典 第4版．東京 三省堂 1977. 1202.
503 磯谷 孝編：演習ロシア語動詞の体．東京 吾妻書房 1977. 182.
504 ヤーコブソン（Jakobson, R.）：音と意味についての六章．花輪 光訳．東京 みすず書房 1977. 166.
505 直野 敦：ルーマニア語の入門．東京 白水社 1977. 290.

506 千葉萠一郎：呼格について．文化と言語 11 (1)，49-52 (9, 1977).
507 中条直樹：プーシキンの諸作品に於ける形容詞．名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学 (21)，261-275 (3, 1977).
508 藤井和子：ヤン・ムカジョフスキーの言語美学について．人文論究（関西学院大） 26(4)，53-65 (3, 1977).
509 深水明美：ロシア語商用文の考察 (3)．文化と言語 10 (2)，117-132 (3, 1977).
510 池上二良：シベリア・ツングース語テキスト (2)——エウエンキー族の民話．北方文化研究 (11)，29-77 (12, 1977).
511 井上幸和：Jers の生成とスラヴ語母音組織の推移について——G. Y. Shevelov〔1964〕への補足的考察．神戸外大論叢 28 (2)，37-53 (7, 1977).
512 石田修一：ロシアにおける三文体論の系譜．ロシア・ソビエト研究 (11)，1-10 (3, 1977).
513 伊東一郎：ロシア・フォークロアにおける類義語反復について．ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9)，14-25 (10, 1977).
514 笠間啓治：Вятка の日本語表記をめぐって．人文社会科学研究（早大） (14)，81-102 (3, 1977).
515 ————：Вязьма の日本語表記をめぐって．人文社会科学研究（早大） (15)，97-114 (3, 1977).
516 北岡誠司：構造説話論の方法 (3)．えうゐ (4)，150-152 (3, 1977).
517 松川秀郎：現代ロシア動詞の「不完了体未来」について．神戸外大論叢 28 (2)，19-36 (7,

1977).

518 松本幹男：現代ハンガリー語の hány と mennyi. 語学研究（拓大） (12), 37-39 (11, 1977).

519 三浦元俊：現代ロシア語のアモニム. 名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学 (21), 277-291 (3, 1977).

520 中村泰朗：「イーゴリ軍記」における無前置詞構文. 上智大学外国語学部紀要 (11), 239-244 (3, 1977).

521 丹辺文彦：「ロシア人旅行者の手紙」におけるカラムジーンの同意語の用例について. →〔21〕ロシアの思想と文学.

522 小倉博史：ロマン語におけるルーマニア語の特異性について. 京都外国語大学研究論叢 (17), 71-87 (3, 1977).

523 佐々木秀夫；岡本哲也：イワン4世が A. クールブスキーに与えた1564年の書簡——電算機によるその分析と綜合 (2). 愛知大学文学論叢 (58), 208-150 (7, 1977).

524 ———；———：Из материалов для анализа первого послания Ивана Грьзного А. Курбскому. (資料紹介). ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9), 79-87 (10, 1977).

525 田中克彦：カランダーシ——借用の構造. →〔21〕ロシアの思想と文学.

526 塚本圭子：再帰小詞-ся を有する ergative (能格) 格造の無人称について（ポーランド語とロシア語との比較考察). 大阪産業大学論集 人文科学編 (45), 40-56 (7, 1977).

527 植野修司：キリール文字. 窓 (23), 8-9 (12, 1977).

528 山口 巌：古代ロシア語における第2対格について. 人文（京大） (23), 73-86 (3, 1977).

529 矢野通生：スラブ語名詞アクセント論序説. 名古屋大学文学部研究論集 (70), 19-50 (3, 1977).

R530 石綿敏雄：ローマン・ヤーコブソン著，服部四郎監訳「失語症と言語学」. 国語学 (109), 53-56 (6, 1977).

R531 磯谷 孝：Черняховская, П. А.; Перевод и смысловая структура. М., 1976. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9), 88-92 (10, 1977).

R532 伊東一郎：ヴャチェスラフ・イワーノフ「ソ連記号学史概説」. 月刊言語 6 (10), 75 (9, 1977).

R533 笠間啓治：三省堂編修所編「コンサイス地名辞典」. ロシヤ語ロシヤ文学研究 (9), 93-98 (10, 1977).

R534 森口恒一：R. ヤコブソン著，服部四郎監訳「失語症と言語学」. 季刊人類学 8 (2), 208-210 (6, 1977).

R535 村山七郎：ボードアン・ド・クルトネ「一般言語学著作選集」. 窓 (21), 60-61 (6, 1977).

追 補

536 井上幸和：ロシア語（スラヴ語）の動詞アスペクト範疇について——理念と形式の問題. 神戸外大論叢 27 (5), 69-84 (11, 1976).

537 栗栖 継：社会主義と言語問題——エスペラント運動を通して. 情況 (100), 91-109 (11, 1976).

538 松川秀郎：現代ロシア語における従属的複雑文の生成について. 神戸外大論叢 27 (5), 25-43 (11, 1976).

539 丹辺文彦：カラムジーンのロシア語観について. 一橋論叢 76 (3), 83-89 (9, 1976).

540 沢田于一郎：セルボ・クロアチア語の成立背景. 神戸外大論叢 27 (5), 45-67 (11, 1976).

参 照

〔36〕, 〔293〕, 〔301〕, 〔569〕.

1.7 心理，教育

541 遊びと労働の保育，ドイツ民主共和国教育省・教育科学アカデミー編著，豊田久亀；豊田和子

編訳. 名古屋　黎明書房　1977. 248.

542 ドイツ民主共和国の総合技術教育——子どもの全面発達をもとめて，産業教育研究連盟編. 東京　民衆社　1977. 297.

543 イワノフ（Иванов, И. И.）：ソ連のボクシング授業，児島盛芳；山本　旭訳（スポーツ・ライブラリー　44）. 東京　ベースボール・マガジン社　1977. 162.

544 マカレンコ（Макаренко, А. С.）：集団主義と個人の教育，海老原　遙；橋迫和幸訳. 新読書社　1977. 584.

545 ペトロフスキー（Петровский, А. В.）編著：発達・教育心理学，柴田義松訳. 東京　新読書社　1977. 371.

546 ロシア共和国教育省就学前教育局：乳幼児教育プログラム——年間カリキュラムと各領域の活動，芸術教育研究所訳. 名古屋　黎明書房　1977. 239.

547 世界教育史大系　16——ロシア・ソビエト教育史　2. 東京　講談社　1977. 505.

548 ソ連問題研究会：ソ連邦における教育政策の変遷と現状.〔東京〕〔1977〕. 83.

549 スホムリンスキー（Сухомлинский, В. А.）：教育と教師について. ソロベイチク編，伊集院俊隆；川野辺　敏；福井研介共訳. 東京　新読書社　1977. 341.

550 トレチャク（Третяк, В.）；スネギリョフ（Снегирев, В.）：V. トレチャク物語——ソ連アイスホッケーの星，アイスホッケー・マガジン訳. 東京　ベースボール・マガジン社　1977. 157.

551 ザムスキー（Замский, К. С.）：精神薄弱教育史　茂木俊彦他訳. 京都　ミネルヴァ書房　1977. 531, 5.

---

552 阿部重雄：ロシアの1863年大学法. 東京農工大学一般教育部紀要　(13), 25-45 (3, 1977).

553 浅井　潔：ソビエトの保育——風土・社会・生活と保育 (2). 浜松短期大学研究論集　(18), 89-127 (6, 1977).

554 海老原　遙：ソビエト教育の現段階. 窓　(22), 7-10 (9, 1977).

555 藤井敏彦：マカーレンコ教育学の哲学的源泉. →〔547〕世界教育史大系　16.

556 藤原和好：ソビエト学校におけるプーシキンの継承 (1). 三重大学教育学部研究紀要　28(4), 75-82 (3, 1977).

557 藤原幸男：東ドイツ教授学に関する研究 (1-2). 琉球大学教育学部紀要　第1部　(20), 97-110; (21), 221-212 (12, 1976; 12, 1977).

558 浜本純逸：ソビエトの国語教育. 佐賀大国文　(5), 1-25 (11, 1977).

559 平沢　進：理科教育とポリテフニズム. →〔547〕世界教育史大系　16.

560 岩崎正吾：ペスタロッチ運動の発展——ロシア・ソビエトにおけるペスタロッチ教育思想の受容. 広島大学教育学部紀要・第1部　(25), 1-11 (4, 1977).

561 門脇正俊：ソ連の農村学校をめぐる最近の動向. 日本比較教育学会紀要　(3), 69-73 (8. 1977).

562 川野辺　敏：海外情報　ソ連の青少年教育. 社会教育　32 (6), 43-45 (6, 1977).

563 小泉健司：教育テレビと通信衛星——インドとソ連の場合. 教育と情報　(235), 34-39 (10, 1977).

564 駒林邦男：海外教授研究情報——ソビエト——算数のできない子の思考活動の特質と教え方 (1-2). 現代教育科学　20 (6), 114-131; 20 (12), 114-131 (5; 9, 1977).

565 宮川保栄：ソビエトの義務教育について. 海外事情　25 (2), 49-56 (2, 1977).

566 長江好道：ソビエトにおける児童集団の形成過程. →〔547〕世界教育史大系　16.

567 中山研一：ソ連および東欧諸国への留学. 窓　(20), 13-15 (3, 1977).

568 成田十次郎：東ドイツの学習指導要領. 体育の科学　27 (6), 396-398 (6, 1977).

569 根本今朝男；浜本純逸；森田信義：日・米・ソ教科書語いの比較研究 (1)——入門期教科書における名詞. 福岡教育大学紀要・文科編　(26), 121-158 (2, 1977).

570 岡　幸弘：ポーランドの教育改革. レファレンス　27 (11), 95-99 (11, 1977).

571 岡村達雄：現代ソビエト教育職員賃金制度の構造——高等教育研究機関における「体系」と「方式」．長崎大学教育科学研究報告　(24)，35-44 (3, 1977).

572 小野理子：ベストゥージェフ女子大学のこと．窓　(23)，14-18 (12, 1977).

573 ロシア・ソビエト教育史年表．→〔547〕世界教育史大系　16.

574 坂本市郎：ソビエトの入試制度．教育　27 (11)，61-69 (10, 1977).

575 佐々木英一：ドイツ民主共和国の「職業準備的総合技術教育」概念の基本的性格について——職業的基準訓練の歴史的意義．京都大学教育学部紀要　(23)，141-151 (3, 1977).

576 関　啓子：クループスカヤにおける労働学校教育の思想と理論．→〔21〕ロシアの思想と文学.

577 ————：ルソーとクループスカヤ．一橋論叢　78 (5)，58-77 (11, 1977).

578 ソ連の小学校の国語教育（座談会）：倉沢栄吉；ダヴィジェンコ（Давиденко, Т.）；長島貞夫．児童心理　31 (7)，1336-1347 (7, 1977).

579 菅原　徹：ウシンスキーの教育学説——「生まれつきのもの」と教育．明治大学人文科学研究所紀要　(15)，1-20 (3, 1977).

580 竹田正直：ソ連邦における教育史研究の動向とロシア社会民主労働党第2回大会での論争．北海道大学教育学部紀要　(28)，129-144 (1, 1977).

581 玉木英彦：一般教育における「数理科学」を考える．窓　(21)，2-6 (6, 1977).

582 山本俊朗；井内敏夫：ポーランドの学生生活．海外事情　25 (5)，18-25 (5, 1977).

R583 佐藤一子：新資料も含めた貴重な労作——クルプスカヤ著，石井郁子・関　啓子訳「婦人解放と教育」．教育　27 (3)，78-80 (3, 1977) →〔'76-356〕.

R584 柴田義松：ア・ブルシリンスキー著　金光不二夫訳「思考心理学とサイバネティクス」．窓　(20)，58-59 (3, 1977).

R585 竹田正直：ア・ア・アバクーモフ他編「ソ連邦における国民教育・資料集1917-1973年」．教育学研究　44 (2)，193-195 (6, 1977).

追　補

586 アクサリナ（Аксарина, Н. М.）：ソビエトの社会保育，伊集院俊隆解説．東京　新読書社　1976. 101.

---

587 海老原　遙：ロシア・ソビエト地方教育史メモランダム．教育学研究　43 (12)，353-357 (12, 1976.

588 長江好道：ツァーリズム下における中等教育政策の特質——ギムナジア令・教科課程の改訂をめぐる諸提案を中心として（1825-1894）．岩手大学教育学部研究年報　(36)，299-333 (11, 1976).

589 佐藤令子：コメニウスの「地上の迷路」——絶望からの回帰．橘女子大学研究紀要　(4)，288-277 (10, 1976).

590 関　啓子：トルストイにおける自由教育論をめぐって．一橋論叢　76 (3)，62-68 (9, 1976).

591 竹下五久男：ソ連スポーツ・コーチによる訓練計画について．体育研究　(10)，123-138 (1, 1976).

592 豊村洋子：N・K・クループスカヤ教育学の遺産と継承——労働教育との関連で．北海道教育大学紀要　第1部 C—教育科学編　27 (1)，1-12 (9, 1976).

参　照

〔177〕，〔197〕.

1.8 芸　術

593 木村　浩：ロシアの美的世界（新潮選書）．東京　新潮社　1977. 219.

594 ニジンスキー（Nijinsky, R.）：その後のニジンスキー，市川　雅訳．東京　現代思潮社　1977. 299.

595 ウィットウォース (Whitworth, G. A.): ニジンスキーの芸術, 馬場二郎訳. 東京 現代思潮社 1977. 182.

---

596 藤沼 貴: ロモノーソフのモザイク画. 比較文学年誌 (13), 31-46 (3, 1977).

597 加藤九祚: 中央アジアの仏教遺跡——ヴェールをぬいだソ連領の仏教遺跡 (古代美術館 31). 芸術新潮 28 (4), 85-97 (4, 1977).

598 木村 浩: ロシアの美的世界 (28-30完) 学燈 74 (1), 42-45; 74 (2), 48-51; 74 (3), 48-51 (1-3, 1977).

599 ———: ロシアの美的世界——ロシアの森と異教と. ロシア手帖 (11), 10-13 (12, 1977).

600 峰 恭介: 政治は芸術を弾圧できない——チェコスロヴァキアの体制と美術. 美術手帖 (424), 170-191 (9, 1977).

601 森田 稔: 初期ソヴェトの音楽家たち. えうる (4), 106-111 (3, 1977).

602 諸井 誠; 園田高弘: ショパンについて (1-3完) (ロマン派のピアノ曲——分析と演奏 4-6). 音楽芸術 35 (4), 46-55, 59; 35 (5), 44-55; 35 (6), 50-63 (4-6, 1977).

603 中山公男: ロシア女帝の集めた西欧絵画——エルミタージュ美術館展を機に. 芸術新潮 28(9), 87-93 (9, 1977).

604 小倉重夫: オペラにおける劇的真実——モスクワオペラ公演にちなんで. 音楽芸術 35 (6), 82-85 (6, 1977).

605 大塚 明: ロシア芸術音楽史における農奴の世代. →〔21〕ロシアの思想と文学.

606 リラの僧院——ソフィア近郊, ブルガリア 14 世紀-19 世紀: イコンの砦 (平田翰那); オルフェウスの誘い (石上申八郎). SD スペースデザイン (155), 63-66 (8, 1977).

607 佐藤恭子: ソビエトの劇評家. 悲劇喜劇 30 (5), 19-22 (5, 1977).

608 佐藤俊子: ディアギレフ・バレエ 1909-1914 (1-3). 芸能 19 (2), 9-16; 19 (3), 8-16; 19 (4), 9-17 (2-4, 1977).

609 ジーモンス (Simons, E.): 新しい世界芸術としての社会主義リアリズム, 山崎八郎訳. 唯物史観 (18), 60-73 (10, 1977).

610 園田高弘; 諸井 誠: リストについて (1-3完) (ロマン派のピアノ曲——分析と演奏 7-9). 音楽芸術 35 (7), 52-61; 35 (8), 46-56; 35 (9), 50-64 (7-9, 1977).

611 ソヴィエト映画——10 月革命 60 周年記念 (特集): ソヴィエト映画に寄せる (岩崎 昶); 10 月と映画 (ウラジーミル・バスカーコフ (В. Баскаков) 著, 山田和夫訳); 10 月と世界の映画——二つの国際シンポジウムから (山田和夫); スクリーンの中のレーニン —— Leniniana は永遠に…(レフ・パルフェーノフ著, 田中ひろし訳); ソビエト映画 それは社会主義リアリズムの芸術である (ヴィタリ・ジタン著, 田中ひろし訳); 民族共和国映画の半世紀 その多彩で豊かな作品群 (田中ひろし訳); 若い映画世代の実験と成長 (ウラジーミル・ザイカ著, 田中ひろし訳); いま, ソヴィエト映画第一線監督は… (野原まち子; 吉田卓造; 町田陽子); モスクワ映画祭賞え書き (山田和夫); ソヴィエト・アニメーション映画の軌跡 (森卓也); 1927-77 日本公開ソヴィエト映画一覧. キネマ旬報 (722), 11-142 (18, 11, 1977).

612 高橋睦郎: 聖山アソスへの道——ギリシア・ビザンティン (古代美術館 33). 芸術新潮 28 (7), 78-93 (7, 1977).

613 「惑星ソラリス」から送られたタルコフスキーのメッセージ (座談会): 光瀬 龍〔他〕. キネマ旬報 (705), 124-129 (1, 4, 1977).

614 八住利雄: あの頃のこと (13-14) ——モスクワ芸術座のこと (C-D). 劇と評論 18(1), 27-31; 18 (2), 33-37 (4; 11, 1976).

615 吉永清子: ワルシャワ高等音楽院夏期セミナーに参加して. 相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集 音楽学部編 (24), 35-42 (3, 1977).

R616 藤枝静男: 木村 浩著「ロシアの美的世界」. 波 11 (11), 27-28 (11, 1977) →〔593〕.

R617 深見 弾: A・レオーノフ, A・ソコロフ画集「人間と宇宙」. 窓 (22), 56-58 (9, 1977).

R618 川尻泰司：ボリショイ人形劇場——初めて来日したソ連人形劇．テアトロ (415)，34-36 (9，1977)．

R619 大久保喬樹：遠山一行「ショパン」をめぐって．季刊芸術 11 (1)，126-137 (1，1977)．

R620 中本信幸：文学座「かもめ」——したたかな主張を秘めた演出．テアトロ (418)，30-33(12，1977)．

追 補

621 アンドリッチ (Andrić, I.)：ゴヤとの対話，田中一生訳．東京 恒文社 1976. 101.

622 伊東一郎：ロシアのストラヴィーンスキイ．ロシア手帖 (10)，14-18 (12，1976)．

623 斎藤 久：ショパンのバラードの指導——バラード第1番ト短調作品23について．福島大学教育学部論集 28 (3)，39-44 (11，1976)．

624 椎名正己：ショパンのメロディ (1)——音程，施法と音階．福島大学教育学部論集 28 (2)，41-50 (11，1976)．

参 照

〔286〕.

2. 社会科学

2.1 政治，軍事

625 アムネスティ・インターナショナル：ソ連における良心の囚人，木村明生；長井康平訳．東京 朝日新聞社 1977. 243，11.

626 現代共産主義事典，現代思想研究会編．東京 国書刊行会 1977. 318，24. 戦後共産主義運動対照年表：273-318.

627 平和・民主主義・社会主義とともに——ブレジネフ小伝，ソ連邦共産党中央委員会附属マルクス・レーニン主義研究所編，近江谷左馬之介訳監．東京 現代の世界社 1977. 224.

628 石堂清倫；高田爾郎編：ソヴェト反体制——地下秘密出版のコピー 第2輯．東京 三一書房 1977. 213.

629 角間 隆：恐怖の隣人クレムリンの野望．東京 実業之日本社 1977. 246.

630 加藤雅彦：東ヨーロッパ．改訂第2版．東京 日本放送出版協会 1977. 284.

631 フルシチョフ (Хрущев, Н. С.)：フルシチョフ秘密報告「スターリン批判」，志水速雄訳・解説（講談社学術文庫），東京 講談社 1977. 218.

632 菊地昌典：現代ソ連論——史的考察と理論分析．東京 筑摩書房 1977. 441，13.

633 木村明生：クレムリン物語——ソビエト権力の構図．東京 朝日新聞社 1977. 313. 5.

634 ————：ソ連——その虚像と実像 体験的社会主義論．東京 泰流社 1977. 253.

635 コミンテルン第7回世界大会に於ける報告演説，討論並に決議，社会問題資料研究会編（社会問題資料叢書 第1輯）．京都 東洋文化社 1977. 530.〔司法省刑事局「思想研究資料」特輯第30号 昭和11年刊の複製〕.

636 ラジッチ (Lazić, B. M.)；ドラチコヴィチ (Drachkovich, M. M.)：コミンテルンの歴史，菊地昌典監訳 岡本充弘〔等〕訳．東京 三一書房 1977. 433，55.

637 レーニン (Ленин, В. И.)：レーニン——1905年革命と帝国主義戦争，K. シュミット編，高田爾郎訳．東京 現代思潮社 1977. 271.（エンゲルス・レーニン軍事＝政治編集 2）.

638 ————：民族問題ノート，村田陽一；坂井信義訳．東京 大月書店 1977. 380.

639 レオンハルト (Leonhard, W.)：岐路に立つ共産主義，高橋正雄；渡辺文太郎訳．東京 読売新聞社 1977. 340.

640 ルクセンブルク (Luxemburg, R.)：獄中のローザ——マティールデ・ヤーコプへの手紙，シ

ャルロッテ・ベラート編，渡辺文太郎訳．東京　新泉社　1977．258.

641　ルクセンブルグ（Luxemburg, R.）：ヨギヘスへの手紙　4，伊藤成彦；米川和夫；阪東　宏訳．東京　河出書房新社　1977．334，15，7.

642　松島　明：ソ連社会とクレムリンの断絶．東京　泰流社　1977．222.

643　メドヴェーデフ（Медведев, З. А.）；（Медведев, Р. А.）：告発する．狂人は誰か——顛狂院の内と外から，石堂清倫訳．東京　三一書房　1977．254.

644　中西　治：ソ連政治の構造と動態　増補版．東京　南窓社　1977．366.

645　東京大学社会科研究所編：現代社会主義——その多元的諸相．東京　東京大学出版会　1977．403.

646　トロツキー（Троцкий, Л.）：トロツキー著作集——1935-36　下，野村淳三訳．東京　拓殖書房　1977．327.

647　内田良平：ロシア亡国論　覆刻版，宮川悌二郎解説．東京　大東塾出版部　1977．254.〔影山正治監修　黒竜会本部　明治34年刊の複製〕.

648　ヤルタ会談の意義——三大国の外交と新しい力の均衡，スネル（Snell, J. L.）編，ポグー（Pogue, F. C.）；デルゼン（Delzell, C. F.）；レンセン（Lensen, G. A.）著，遠藤晴久訳．東京　桐原書店　1977．300.

649　アマルリク（Амальрик, А.）：ソ連社会のイデオロギー的構造——六つのイデオロギーの分析，直井武夫訳．自由　19（7），18-29（7，1977）.

650　ベオグラード会議，米第7艦隊の存在意義（海外論調）．国防　26（8），68-71（8，1977）.

651　ブレジネフのソ連（世界の潮）　世界　（381），279-295（8，1977）.

652　荏原　清：「ソ連ミグ25戦闘機によるベレンコ中尉亡命事件」の写真報道国際的スクープ写真——その瞬間に至る取材の軌跡．新聞研究　（315），60-63（10，1977）.

653　藤村　信：東ヨーロッパの暗流（1-2完）（パリ通信）世界　（380），220-240；（381），279-295（7-8，1977）.

654　藤田　勇：第20回党大会と社会主義的適法性路線の展開．→〔645〕現代社会主義.

655　藤原広次：海洋主権と防衛の問題として——主として，ソ連，中国のシー・パワーの情勢とのかかわりにおいて．コリア評論　20（190），15-20；14（10，1977）.

656　ゴルシコフ（Горшков, С.）：ソ連海軍平時の役割，宮内邦子訳．中央公論　92（7），160-167（7，1977）.

657　平田重明：チェコスロバキア「再生」運動の過去・現在・未来．現代と思想　（29），130-137（9，1977）.

658　————：チェコスロバキア「再生」運動の前史的構造——社会主義への独自の道をめぐる源流と逆流．→〔645〕現代社会主義.

659　飯高　茂：煉獄の中のソ連知識人．文芸春秋　55（4），190-200（4，1977）.

660　乾　政彦：苦悩するNATO軍——ワルシャワ条約軍との対比を分析する．国防　26（7），8-27（7，1977）.

661　伊藤皓文：1980年代における米ソ・ミリタリ・バランス——ソ連優位の警戒論高まる米国．国防　26（7），30-62（7，1977）.

662　夏之炎：ブレジネフ書記長への公開質問状．文芸春秋　55（6），142-153（6，1977）.

663　革命60年のソビエト——社会主義をどうみるか（座談会）：佐藤経明；嶋崎　譲；杉山正三．月刊社会党　（252），90-109（11，1977）.

664　笠間　哲：領土か魚か——錯誤つづきの漁業交渉．諸君　9（6），226-235（6，1977）.

665　片岡信之：1968年——「プラハの春」の激動．社会科学研究年報（龍谷大）　（8），165-195（7，1977）.

666　木戸　蓊：地揺れする東欧は訴える——地震・デタント・人権．中央公論　92（5），229-239（5，1977）.

667 菊地昌典：スターリン粛清理論の展開——1937年2-3月党中央委員会の一考察．教養学科紀要（東大）(9)，27-37 (3, 1977).
668 木村明生：ソ連・東欧圏の人権問題．婦人之友 71 (5)，59-65 (5, 1977).
669 ————：東欧の人権運動とヘルシンキ宣言．コリア評論 20 (184)，17-23 (12, 1977).
670 木村 浩：ソ連版政治学辞典のユーモア．諸君 9 (3)，220-221 (3, 1977).
671 衣笠哲生：ロシア革命60周年と先進国革命．社会主義 (311)，30-53 (11, 1977).
672 小牧近江：ロシア革命60周年に寄せて．月刊社会党 (252)，73-75 (11, 1977).
673 小松原久夫：人権擁護を求める新たな潮流——注目される6月の「ヘルシンキ宣言・再検討会議」(海外情報)．新聞研究 (308)，80-83 (3, 1977).
674 栗栖 継：「憲章77」と「プラハの冬」——人権問題を抜きにした社会主義論議は不毛だ！（含・チェコ「憲章77」宣言）．公明 (182)，114-122 (4, 1977).
675 ————：東欧の人権問題——「憲章77」．国際問題 (208)，16-30 (7, 1977).
676 草鹿外吉：社会主義と人権——チェコスロバキアの「77憲章」をめぐって．民主文学 (138)，110-120 (5, 1977).
677 リピニスキ (Lipiński, E.)：同志ギエレクへの公開状，佐藤経明訳．現代の理論 14 (2)，119-127 (2, 1977).
678 松本博一：チェコ事件後の東欧の政治動向．国際問題 (208)，2-15 (7, 1977).
679 森永和彦：ギエレクの悲劇．自由 19 (1/2)，73-79 (1, 1977).
680 村上 薫：ソ連の軍事的膨張とアジアへの影響．コリア評論 20 (184)，10-16 (4, 1977).
681 長尾克子：レーニンの民族国家論——「帝国主義論」を中心として．国家論研究 (13)，55-77 (6, 1977).
682 中山研一：地方分権のすすめ（留学雑感 2）．ちくま (94)，14-15 (2, 1977).
683 ————：官僚主義とその歯止め（留学雑感 3）．ちくま (95)，22-23 (3, 1977).
684 丹羽春喜：ソ連における「真」の防衛関係費支出の規模についての数量的考察．新防衛論集 5 (2)，16-102 (10, 1977).
685 リグビー (Rigby, T. H.)：ブレジネフの権力獲得への道——ソヴェト政治史に照らしての若干の考察，中西 治訳．共産主義と国際政治 2 (3)，2-16 (12, 1977).
686 斎藤 稔：ユーゴスラビア チトー体制と自主管理社会主義．現代と思想 (29)，184-189 (9, 1977).
687 斎藤 忠：現代核戦略の実態——優位にたつソ連，質的競争が激化．革新 (83)，156-166 (6, 1977).
688 斎藤利生：米ソ人工衛星・白熱するスパイ合戦．中央公論 92 (6)，280-287 (6, 1977).
689 榊 利夫：日本における科的社会主義の旗——ユーゴスラビアのツァブタットで開かれた円卓理論会議「社会主義と政治システム」(77年9月26-30日）での報告．前衛 (418)，14-23 (12, 1977).
690 ————：統一戦線論の生成——レーニンの未完の探究を中心に．前衛 (416)，181-202 (10, 1977).
691 榊原史郎：反ソナショナリズムの作られ方．現代の眼 18 (8)，106-113 (8, 1977).
692 桜井保之助：ユーゴスラヴィアのコミューン制——官僚制の打破と国家権力の縮減をめざす政治体制 (1-4完）外国の立法 16 (2)，95-101；16 (3)，148-154；16 (4)，212-214；16(5)，270-273 (3；5；7；9, 1977).
693 佐々木照央：アレクサンドル・ウリヤーノフと「人民の意志」党テロフラクション．埼玉大学紀要 外国語学文学編 (11)，117-144 (11, 1977).
694 ————：「人民の意志」党の終焉．無政府主義研究 (7)，17-40 (5, 1977).
695 佐瀬昌盛：考察・チェコスロヴァキア戦後史——チェコの悲劇——その歴史と教訓(18-26完)．革新 (79)，96-107；(80)，88-97；(81)，71-79；(83)，76-85；(84)，150-159；(85)，89-97；(86)，85-97；(87)，170-179；(88)，137-149 (2-4；6-11, 1977).

696 佐藤栄一：ソ連と軍備管理・軍縮問題．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相．

697 佐藤経明：展望なき東欧の革新（現代世界の構造認識〈特集〉）．現代の理論 14(1)，114-125 (1，1977)．

698 沢村武生：スターリン批判——無謬神話の崩壊．現代の眼 18 (12)，124-131 (12，1977)．

699 「社会主義」世界の内部告発の波（現代の眼）．現代の眼 18 (3)，31-33 (3，1977)．

700 下村由一：東ドイツ ネーションと社会主義——ベルリンの「壁」から16年．現代と思想 (29)，138-143 (9，1977)．

701 塩川伸明：スターリンのプロレタリアート独占論——「党独裁」論争と「伝導ベルト」論をめぐって．思想 (642)，37-56 (12，1977)．

702 諸曾夫兆古：ソ連の戦略．革新 (85)，46-64 (8，1977)．

703 ソ連・東欧の自由抑圧を告発する人権セミナー：人間の尊厳にとっての「自由」（武藤光朗）；生活体験からソ連・東欧の人権問題を考える——想像を絶する自由抑圧の状況（鈴木俊子）；ヘルシンキ宣言の波紋（入江通雅）；マルクス・レーニン主義と自由の関係について（勝田吉太郎）．自由 19 (8)，87-109 (8，1977)．

704 末松 満：北方領土と新兵器．刑政 88 (6)，70-73 (6，1977)．

705 鈴木 肇：基本的人権の現状——ヘルシンキ宣言の波紋ひろがるソ連・東欧圏．革新 (83)，58-70 (6，1977)．

706 鈴木四郎：ルーマニア 苦悩から生まれた独自路線．現代と思想 (29)，207-212 (9，1977)．

707 渓内 謙：現代社会主義の省察 (5-10)．世界 (374)，126-142；(376)，206-218；(377)，192-208；(381)，186-201；(382)，194-208；(384)，226-244 (1；3-4；8；10-11，1977)．

708 豊崎博光：自立へ模索するポーランド．月刊世界政経 6 (3)，138-146 (3，1977)．

709 筒井義男：西欧党とソ連党の対立．同盟 (230)，83-87 (8，1977)．

710 内田健二：ノメンクラトゥーラ制度の一側面——B・ハラシミュー論を中心として．思想 (642)，140-155 (12，1977)．

711 和田春樹：スターリン批判・1953-56．→〔645〕現代社会主義．

712 わが国周辺の軍事力——ソ連・中国・米国・朝鮮半島．自由 19 (6)，111-118 (6，1977)．

713 わが友・ソ連の行動——ソ連極東海軍の現実の姿．自由 19 (6)，118-122 (6，1977)．

714 渡部恒夫：社会政策論の国家観とレーニン「国家と革命」及びマルクス「資本論」第8章「労働日」の国家観 (1-2)．鹿児島経大論集 17 (2)，189-205；17 (3)，61-98 (9；11，1977)．

715 ウエソロウスキー (Wesolowski, W.)；スロモツィンスキー (Słomozyński, K.)：1945年から1975年に至るまでのポーランドにおける階級構造研究の理論的諸志向，荒岡作之；武田義輝訳．立命館産業社会論集 (18)，77-110 (10，1977)．

716 山本佐門：コミンテルンの社会ファシズム論．現代と思想 (30)，101-119 (12，1977)．

717 山崎 洋：ユーゴ社会主義と非同盟——チトー外交の基盤．世界 (383)，254-263(10，1977)．

718 安成秀人：革命60年を迎えたロシア．同盟 (233)，83-85 (11，1977)．

719 湯浅赳男：ソビエト官僚制研究ノート．新潟大学経済学年報 (1)，93-102 (2，1977)．

R720 犬丸義一：「思想研究資料」特輯号の復刻によせて ——「コミンテルン第7回大会の新戦術が裁判に及したる影響」と「コミンテルンにおける戦略戦術の変遷」によせて．歴史学研究 (446)，15-21 (8，1977) →〔635〕．

R721 長沼宗昭：ローザ・ルクセンブルク「ヨギヘスへの手紙」(1-2)．歴史評論 (322)，108-110 (2，1977) →〔'76-53〕．

R722 下村由一：中村丈夫編「第3インターナショナルとヨーロッパ革命」．歴史学研究 (446)，60-61 (7，1977)．

R723 高瀬 浄：木村明生著「ソ連——その虚像と実像」・小林多加士著「現代中国の歴史認識」．世界経済評論 21 (7)，104-106 (7，1977) →〔634〕．

追 補

724 龔 良 佐編：ソ連はいかにして社会帝国主義に変質したのか．藤村俊郎訳．東京 青年出版社

1976. 238.

725 藤井一行：ジダーノフ路線の形成をめぐって．一橋論叢 76 (3)，90-96 (9, 1976).

726 片岡信之：スターリン批判とチェコスロバキア——「プラハの春」に至る潮流．龍谷大学経済経営論集 16 (2)，55-97 (12, 1976).

727 木村 汎：「全人民国家」論とその後——とくに，ソビエト政治におけるその機能変化について．共産主義と国際政治 1 (2)，2-50 (12, 1976).

728 百瀬 宏：フィンランド共産党史——過去と現在．共産主義と国際政治 1 (2)，252-266(12, 1976).

729 長尾一紘：ドイツ民主共和国における選挙制度の形成と発展．比較法雑誌 10(1)，29-58(12, 1976).

730 全ヨーロッパ共産党・労働者党会議最終文書——「ヨーロッパにおける平和，安全，協力と社会の進歩のために」(プラウダ 1, 7, 1976). 共産主義と国際政治 1 (2)，118-129 (12, 1976).

R731 江川 潤：ローザ・ルクセンブルク著「ヨギヘスへの手紙 1」，ダニエル・ゲラン著「革命的自然発生——ゲランのローザ論」．情況 (100)，171-177 (11, 1976) →〔'76-53〕，〔'76-1〕.

参 照

〔24〕，〔32〕，〔39〕，〔44〕，〔51〕，〔64〕，〔284〕，〔919〕，〔990〕，〔1000〕，〔1001〕.

2.2 国際関係

732 アリソン (Allison, G. T.)：決定の本質——キューバ・ミサイル危機の分析，宮里政玄訳．東京 中央公論社 1977. 404.

733 浅野幸穂編：中ソ対立とアジア——1968-75 (研究参考資料 256). 東京 アジア経済研究所 1977. 313.

734 中ソ関係主要文献集 1969-76 年．東京 世界政経調査会 1977. 582.

735 平井友義編：ソ連対外政策の諸様相．東京 日本国際問題研究所 1977. 303.

736 北方領土ソ連の言説に対するわが方の反論．東京 北方領土問題対策協会 1977. 53.

737 コワレンコ (Коваленко, И. И.)：ソ連とアジアの集団安全保障，ソビエト外交研究会訳．東京 恒文社 1977. 509.

738 マテス (Mates, L.)：非同盟の論理——第三世界の戦後史，鹿島正裕訳．東京 TBS・ブリタニカ 1977. 434.

739 永井陽之助；入江 昭編：*The Origin of the Cold War in Asia.* 東京 東京大学出版会 1977. 9, 448.

740 中沢孝之：デタントのなかの東欧．東京 泰流社 1977. 284.

741 境 勇吉：日ソと北方領土．〔五所川原〕 文芸印刷事業出版 1977. 420.

742 清水威久：北方領土問題解決の四方式——提案・評論・資料．東京 霞ケ関出版 1977. 506.

743 東京外国語大学海外事情研究所：社会主義諸国とその国際環境に関する研究 (昭和 51 年度文部省特定研究経費)．東京 1977. 230.

744 赤坂太郎：日ソ交渉の「愛国者」たち．文芸春秋 55 (6)，370-374 (6, 1977).

745 秋山和宏：ソ連の対日参戦決定にいたる米ソ関係の考察．法学紀要 (日大) (18)，61-198(1, 1977).

746 青木伸治：日ソ漁業交渉と日本共産党．前衛 (412)，184-193 (7, 1977).

747 浅井久仁臣：レバノン内戦を追って (1)——内戦を演出したソ連の影．現代の眼 18(3). 270-279 (3, 1977).

778 米中ソの東北アジア外交を解読する (座談会)：中央公論社外信部．中央公論 92 (5)，164-175 (5, 1977).

749 米ソ戦略兵器制限交渉の虚実（外信部記者座談会）．中央公論 92 (6)，186-191 (6, 1977).
750 遠藤繁明：かえせ！北方領土——返還運動の前進のために．同盟 (227)，66-73 (5, 1977).
751 藤村瞬一：ユーロコミュニズムとソ連．共産主義と国際政治 2 (2)，2-18 (9, 1977).
752 二見俊男：日ソ漁業交渉と今後の課題——政府の場当り外交が招いた日本漁業と労働者の危機．同盟 (228)，41-46 (6, 1977).
753 ガーリン（Галин, М.）：中国で，いま何が起っているか——ソ連側からみた中国の権力闘争．自由 19 (8)，73-76 (8, 1977).
754 月刊自由民主編集部：健闘つづく鈴木農相の訪ソ——ソ連の200カイリで今後の日ソ間漁業の大ワク決める．月刊自由民主 (255)，59-62 (4, 1977).
755 林 重幸：北方領土返還要求キャラバン記——共感よぶ返還要求の訴え．同盟 (231)，57-62 (9, 1977).
756 平井友義：ソ連外交の60年——「平和共存」観の歴史的変遷によせて．共産主義と国際政治 2 (3)，17-34 (12, 1977).
757 ———：ソ連外交政策研究の問題——政策決定論を中心に．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相.
758 平竹伝三：千島列島の紀行とその帰属問題——千島の帰属を策謀したヤルタ秘密協定無効論．中央学院大学論業 12 (1)，93-118 図1枚 (6, 1977).
759 茨木二郎：ソ連のアジア進出と米中などの対応．コリア評論 20 (187)，10-17 (7, 1977).
760 飯田健一：漁業交渉に見るソ連外交の性格．中央公論 92 (6)，109-119 (6, 1977).
761 生田真司：ソ連アジア・モンゴル アフリカ進出を目指すソ連．朝日アジアレビュー 8 (2)，140-142 (6, 1977).
762 ———：ソ連アジア・モンゴル 革命60周年を迎えるブレジネフ政権．朝日アジアレビュー 8 (3)，122-124 (9, 1977).
763 ———：ソ連アジア・モンゴル ソ連新憲法の問題点．朝日アジアレビュー 8 (4)，120-122 (10, 1977).
764 今川瑛一：ソ連の新世界戦略——その「強さ」の背景．世界 (379)，189-200 (6, 1977).
765 石神 潔：駐日ポーランド大使の悲惨．月刊ペン 10 (3)，108-118 (3, 1977).
766 伊藤 満：北方領土問題の軌跡．創価法学 6 (3/4)，61-79 (3, 1977).
767 伊東孝之：The Genesis of the Cold War, Confrontation over Poland, 1941. →〔739〕*Origin of the Cold War in Asia.*
768 カーター政権の原子力・エネルギー政策，日ソ漁業交渉（海外論調）．国防 26 (6)，78-83 (6, 1977).
769 河村一夫：満韓に関する日露交渉関係意見書の構成について．日本歴史 (355)，82-84 (12, 1977).
770 木村明生：毛沢東主義とソ連——理論と実践をめぐって．共産主義と国際政治 1 (3)，43-70 (3, 1977).
771 ———：ソ中関係の変遷——1949-74年．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相.
772 ———：高まるソ連・東欧圏の反体制運動（焦点）．革新 (180)，22-25 (3, 1977).
773 北沢正雄：原油をめぐるオペック，米・ソの角逐．月刊世界政治 6 (3)，38-48 (3, 1977).
774 小島洋三：逃げ道のない日ソ交渉．月刊社会党 (247)，136-141 (6, 1977).
775 近藤龍夫：「三つの世界論」と反ソ統一戦線．朝日アジアレビュー 8 (4)，16-21 (10, 1977).
776 神山信一：中ソの関係の今後とその影響．内閣官房調査月報 22 (3)，14-25 (3, 1977).
777 窪田 武：200カイリ時代漁業外交の厳しさみせた——日ソ漁業交渉．aff 農林省広報 8 (8)，11-14 (8, 1977).
778 草鹿外吉：米ソ関係におけるソルジェニツィン以後．文化評論 (199)，49-57 (11, 1977).
779 ローウェンタール（Lowenthal, R.）：ソ連の「逆帝国主義」——第三世界戦略の成果と限界，小松修幸抄訳．中央公論 92 (7)，118-126 (7, 1977).
780 槇 二郎：難航する日ソ漁業交渉と日本漁業の課題．革新 (82)，107-109 (5, 1977).

781　槙　二郎：日ソ漁業交渉「敗戦」の経緯と問題点．革新　(85)，110-112 (8, 1977).
782　丸山　昇：文革の「終結」と文化・思想問題——中ソの動向と激動の世界．文化評論　(199)，39-48 (11, 1977).
783　民社党政策審議会：資料構成・日ソ漁業交渉と民社党の態度〔含　日ソ漁業交渉関係日誌〕．革新　(83)，176-178 (6, 1977).
784　三宅正樹：モスクワ条約（1970年8月12日）の成立過程．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相．
785　三好　修：「太平洋国家」を主張するソ連——第3回「アジアの平和」日ソ専門家会議報告．京都産業大学論集　6 (1)，196-203 (1, 1977).
786　桃井　真：米ソ恐怖の均衡の実態を衝く．中央公論　92 (7)，127-140 (7, 1977).
787　百瀬　宏：ソ連の対小国政策——フィンランドを事例として．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相．
788　森永和彦：窮地にたたされた対ソ外交．自由　19 (6)，102-108 (6, 1977).
789　村上　薫：クレムリンの対日戦略と無策の日本．月刊ペン　10 (7)，172-182 (7, 1977).
790　中嶋嶺雄：毛沢東とスターリンとの出会い．共産主義と国際政治　1 (3)，24-42 (3, 1977).
791　中西　治：日ソ漁業交渉と日本の世論．国際問題　(211)，15-29 (10, 1977).
792　————：ソ連の対中和解の裏側．月刊世界政経　6 (2)，168-175 (2, 1977).
793　中山弘正：世界経済の中の日ソ農業問題——日ソ農業比較研究（序説）．経済論集（明治学院）(26)，81-109 (3, 1977).
794　成瀬　恭：ソ連側から見た日本の「北方領土」——地理戦略学的一考察．軍事史学　12 (4)，69-79 (3, 1977).
795　200カイリ問題は日ソ領土問題ではない（対談）：石　弘之；小泉貞彦．現代の理論　14 (7)，47-65 (7, 1977).
796　西村文夫：発展途上国に対するソ連の新戦略．→〔735〕ソ連対外政策の諸様相．
797　————：ソヴェト対外政策の内在的動因——ブレジネフ政権下における社会，政治，対外政策のリンケージ．国際問題　(211)，41-54 (10, 1977).
798　日ソ漁業交渉——曲折の意味（日本の潮）．世界　(380)，254-257 (7, 1977).
799　日ソ交渉——何が摩擦を生んだか（日本の潮）．世界　(379)，176-180 (6, 1977).
800　二都交渉の足どり——日ソ漁業交渉（情勢）．農林金融　30 (6)，373-377 (6, 1977).
801　奥野保男：第5回非同盟諸国首脳会議の分析——ベオグラードからコロンボまでの流れの中で．外務省調査月報　18 (1)，1-36 (3, 1977).
802　大郷正夫：北方漁業と関連問題——主として国際法の角度から見て（上・下）．レファレンス　27 (3)，5-22；27 (5)，6-24 (3；5, 1977).
803　佐口　透：日ソ領土問題の世界的背景．中央公論　92 (7)，68-85 (7, 1977).
804　坂本夏男：ソ連の対日参戦決定についての一考察——米ソ首脳の外交交渉を中心として．久留米工業高等専門学校研究報告　(28)，69-56 (8, 1977).
805　関口義人：日ソ漁業交渉と領土問題．公明　(184)，82-89 (6, 1977).
806　嶋田　昇：千島列島はどこの領土か——日ソ漁業交渉をめぐって．あすの農村　(31)，126-131 (6, 1977).
807　志水速雄：冷戦の起原とソ連外交 (2)——ルーマニアのソヴィエト化．→〔743〕社会主義諸国とその国際環境に関する研究．
808　清水威久：北方領土問題の歴史と現実．現代の眼　18 (8)，98-105 (8, 1977).
809　総評：200海里経済水域および北方領土に関する見解（案）．総評調査月報　11 (6)，21-24 (6, 1977).
810　曾野　明：米・中・ソの谷間の日本（講演要旨）．経済人　31 (10)，849-869 (10, 1977).
811　鈴木　肇：ソ連は日本になぜ強硬なのか．コリア評論　20 (186)，19-25 (6, 1977).
812　立木　洋：日ソ漁業交渉の周辺——200カイリ問題をめぐって——立木洋日本共産党参議院議員に聞く．文化評論　(164)，39-49 (6, 1977).
813　大寿堂　鼎：領土問題——北方領土・竹島・尖閣諸島の帰属．ジュリスト　(647)，53-59 (1,

9, 1977).

814 高野　明：ソ連における北方領土研究によせて．史観　(95), 14-28 (3, 1977).

815 高野雄一：領土問題．ジュリスト　(647), 43-52 (1, 9, 1977).

816 滝沢一郎：日ソ資源抗争57年 —— 日ソ交渉裏には常に魚と石油あり．諸君　9 (6), 210-225 (6, 1977).

817 田村幸策：中ソ関係30年の起伏を展望 ——1960年が決裂の分水嶺，鄧小平のモスクワ演説が烽火．国士館大学政経論叢　(26), 37-74 (9, 1977).

818 津田道夫：戦争責任と「北方領土」．現代の眼　18 (8), 82-89 (8, 1977).

819 津川武一：ソ連にはっきりものを言えなかった自民党議員．あすの農村　(32), 140-142 (7, 1977).

820 渡辺　朗：北方領土問題の基本姿勢．同盟　(227), 50-61 (5, 1977).

821 山田寿太郎：戦後の米ソ関係——冷戦 (1)．研究と資料（大阪市大）　(39), 49-65 (3, 1977).

822 山田坂仁：ソ連の民族政策と北方領土問題——これに対する二つの原則的に異なる立場と併せて一部「中国派」のブルジョア民族主義を評す．経営論集（明大）25 (1/2), 67-133 (11, 1977).

823 山内昌之：トルコの対外政策と東方関係 (1920-1921) ——「バツーム危機」をめぐるトルコ－ソヴェト関係．アジア・アフリカ言語文化研究　(13), 1-66 (3, 1977).

824 山崎太喜男：マラッカ海峡をめぐる米ソの攻防 —— 駐タイ米軍撤退とタイ・クーデターの背景．国防　26 (4), 28-40 (4, 1977).

825 米田龍児：バルチック艦隊（ソ連漁船団）をしめ出せ（現地ルポ　小名浜，四倉，勿来），月刊自由民主　(255), 68-79 (4, 1977).

R826 加藤六蔵：アン・タイスン著「中ソの領土論争」．アジア・アフリカ資料通報　(15), 21-28 (10, 1977).

R827 木村明生：清水威久著「ソ連の対日戦争とヤルタ協定」．共産主義と国際政治　2(1), 123-128 (6, 1977) →〔'76-441〕.

R828 武藤一羊：ユーゴスラビアの実践から——レオ・マテス著「非同盟の論理」．潮　(217), 312-314 (6, 1977) →〔738〕.

追　補

829 シモンズ (Simmons, R. R.)：朝鮮戦争と中ソ関係，林　健彦；小林敬爾訳．東京　コリア評論社　1976. 343.

---

830 キム (Ким, Г. Ф.)：ソ連における第3世界分析の論理，北沢洋子訳．情況　(100), 85-90 (11, 1976).

831 中嶋嶺雄：高崗事件と中ソ関係．共産主義と国際政治　1 (1), 60-86 (9, 1976).

832 中西　治：第25回党大会とソ連外交．共産主義と国際政治．1 (1), 4-21 (9, 1976).

833 ソ連・アルバニア論争の一断面 (ALBANIA TODAY, No. 6 (25), 1975. 11-12)（資料）池藤義夫訳．共産主義と国際政治　1 (1), 96-107 (9, 1976).

R834 伊豆見　元：朝鮮戦争研究の新段階——R・シモンズ「朝鮮戦争と中ソ関係」を中心として．共産主義と国際政治　1 (1), 87-95 (9, 1976) →〔829〕.

参　照

〔109〕, 〔150〕, 〔183〕, 〔976〕, 〔977〕.

2.3 法　　律

835 現代社会主義憲法論，社会主義法研究会編（社会主義法研究年報　4）．京都　法律文化社　1977. 237.

836 ソ連新憲法特集号，ラジオプレス編．東京　ラジオプレス　1977. 43, 31.〔1977年10月7日採択〕.

---

837 アルバニア人民社会主義共和国憲法（草案），池藤義夫訳・解説．共産主義と国際政治　1(3)，71-84（3，1977）．
838 浅井幸男：社会主義憲法と憲法的統制．岐阜経済大学論集　11（1/2），289-325（6，1977）．
839 ビェジャネク（Bierzanek, R.）：現代ポーランドで検討されている法的諸問題，松本祥志訳．立命館法学　（132），124-146（12，1977）．
840 ドイツ民主共和国科学アカデミー・国家と法の理論研究所：マルクス＝レーニン主義国家・法理論（1-2完），渡辺久丸訳．立命館法学　（125/126），141-190；（127），379-415（9-12，1976）．
841 ドイツ民主共和国私法典（試訳）（下）伊藤　進訳．法律論叢（明大）　50（1），115-154（6，1977）．
842 藤田　勇：パシュカーニスのこと．UP　（61），22-30（11，1977）．
843 ――――：再論・ソビエト法学の昨日と今日――訪ソこぼれ話．法律時報　49（12），100-109（10，1977）．
844 福島正夫：アルバニア人民社会主義共和国憲法（シリーズ・外国法の動き）．法律時報　49(9)，80-89（7，1977）．
845 福島正夫：社会主義諸国の総括（検察官）．比較法研究　（38），171-176（3，1977）．
846 胡麻本蔦一：チェコスロバキア社会主義共和国家族法典（紹介）．愛知大学法経論集　法律編（83），147-168（3，1977）．
847 畑中和夫：ソ連（検察官）．比較法研究　（38），137-149（3，1977）．
848 早川弘道：民族問題に関する初期ソヴェト憲法原理の考察．比較法研究　（38），232-239（3，1977）．
849 ――――：全ロシア憲法制定議会とプロレタリア革命の論理――「旧国家機構破壊」テーゼを基軸として（上）．比較法学　11（2），121-157（1，1977）．
850 稲子恒夫：ソ連（1976年）（法律）．比較法研究　（39），175-184（10，1977）．
851 伊藤　進；エンデルレ（Enderle, T.）：ドイツ民主共和国（東独）の新私法典について（続）（1-2完）．民商法雑誌　76（1），54-80；76（2），211-250（4-5，1977）．
852 勝尾鐐三：モスコー・レニングラード，そしてブタペスト――矯正施設管記．法の支配　（30），40-48（5，1977）．
853 菊地昌典：虚構としての全人民国家――ソ連新憲法草案の分析．展望　（224），71-84(8, 1977)．
854 木村明生：ソ連新憲法草案の理想と現実．革新　（85），66-77（8，1977）．
855 木村　浩：ブレジネフ新憲法の読み方．諸君　9（8），117-123（8，1977）．
856 小森田秋夫：社会主義のもとで国営企業管理と労働者権――ソ連型構造の「原型」成立過程．比較法研究　（38），222-231（3，1977）．
857 ――――：ソ連新憲法草案について――その成立過程における若干の問題（含　ソビエト社会主義共和国連邦憲法（基本法）草案翻訳）．法律時報　49（12），119-138（11，1977）．
858 レヴァンドフスキイ（Lewandowski, J.）：資本主義国企業の欧州社会主義国における投資――原則，体制および限界，矢沢　惇訳．国際商事法務 5（7）．297-306（7，1977）
859 松下輝雄：新しいソ連憲法における市民の権利と自由．共産主義と国際政治　2（3），35-52（12，1977）．
860 ――――：「ブレジネフ憲法」の読み方――ソ連新憲法草案とその現代的意義．公明　（186），111-121（8，1977）．
861 見沢俊明：ドイツ民主共和国における労働権概念の形成――社会主義的労働関係の進展との対応において．札幌商科大学・札幌短期大学論集　商経編　（21），135-155（11，1977）．
862 森下敏男：初期ソビエトにおける憲法理論の展開――基本的諸概念の構成をめぐって(4-8完)．神戸法学雑誌　26（1），1-58；26（2），168-233；26（3/4），345-407；27（1），27-83；27（2），151-203（6；9，1976；3；6；9，1977）．
863 ――――：ソ連新憲法草案の歴史的性格と理論構造．月刊労働問題　（238），76-79（8, 1977）．
864 村山士郎：新ソビエト憲法の教育条項．教育　27（12），98-101（11，1977）．

865 中山研一：ポーランドにおける刑法学の現状——アンドレイエフ教授に聞く．刑法雑誌 21 (4)，487-504 (6，1977).

866 ————：ポーランドにおける裁判官の刑罰意識の調査（海外の新思潮 35)．判例タイムズ 28 (3)，75-81 (3，1977).

867 ————：ポーランドの秩序違反法——その制度と運用（海外の新思潮 36)．判例タイムズ 28 (5)，101-109 (4，1977).

868 ————：ポーランドの犯罪統計（資料）（続)．法学論叢（京大） 100 (5/6)，325-340 (3，1977).

869 ————：東欧諸国の犯罪統計．比較法研究 (39)，140-148 (10，1977).

870 新美治一：勤労者代議員ソビエトとその議員の権限について．比較法研究 (39)，106-122(10，1977).

871 ————：ソ連邦の最高国家権力機関としてのソ連邦最高ソビエトについて．法律時報 49 (7)，384-389 (5，1977).

872 ————；竹森正孝：ソ連（法律）紹介．比較法研究 (38)，271-282 (3，1977).

873 日本国とハンガリー人民共和国との通商航海条約（昭和51年条約第14号）に基づく拘禁の通報について（通達・回答)．家庭裁判所月報 29 (4)，181-183 (4，1977).

874 大川睦美：東ドイツ憲法．法律時報 49 (7)，390-398 (5，1977).

875 大木雅夫：ソヴェト法秩序の造型者．上智法学論集 20 (3)，149-183 (3，1977).

876 ラズモフスキー（Разумовский, И.)：「マルクス主義法理論の諸問題」(1925年）第2章——イデオロギーの問題と法，大江泰一郎訳．法経研究（静岡大人文学部） 26 (1)，129-164 (9，1977).

877 佐藤篤士：イタリア・ハンガリーにおけるローマ法の教育——最新海外リポート (1-2完)．法学セミナー (266)，88-91；(267)，138-143 (5-6，1977).

878 関 哲夫：ソ連邦における行政行為の司法審査（3完）（シリーズ・外国法の動き)．法律時報 49 (1)，75-84 (1，1977).

879 社会主義法学の現実的諸課題：社会主義法読書会，天野和夫監修：人民ポーランドの30年間における法律学の発展についての考察（ルイビツキー (Rybicki, J.)）；ソビエト国法学の今日的課題．立命館法学 (131)，87-108 (7，1977).

880 ソビエト社会主義共和国連邦憲法（基本法)，松下輝雄訳．共産主義と国際政治 2(3)，93-111 (12，1977).

881 鈴木輝二：ポーランド憲法改正——その背景と問題点．現代と思想 (29)，144-155 (9，1977).

882 竹森正孝：ユーゴスラビアの憲法．法律時報 49 (7)，399-408 (5，1977).

883 谷川良一：ハンガリー人民共和国の新憲法とソ連邦の現行憲法について．外務省調査月報 18 (1)，63-91 (3，1977).

884 ————：ソ連邦の新憲法草案について（上・下）——ソ連邦憲法草案の特徴点；現行スターリン憲法との相異点．ジュリスト (648)，105-111；(649)，94-104 (15，9；1，10，1977).

885 トポルニン（Топорнин, Б. Н.)：ソ連法学・憲法学現状（講演)，小野一郎訳，畑中和雄校．立命館法学 (129/130)，619-637 (2，1977).

886 辻村 明：ソ連憲法と大衆討議．共産主義と国際政治 2 (3)，53-70 (12，1977).

887 上田 寛：ソビエト刑法とクルイレンコ．比較法研究 (39)，123-130 (10，1977).

888 上野達彦：ソビエト刑事訴訟法における「無罪の推定」原理．愛知大学国際問題研究所紀要 (61)，43-67 (12，1977).

889 渡辺幸生：敵国条項と二つの中ソ同盟条約．福岡大学法学論叢 21 (3/4)，223-236(3，1977).

890 横関 昇：ソ連邦国際私法および国際民事訴訟法規定の改正．亜細亜法学 12(1)，58-73(10，1977).

891 横山晃一郎：東ドイツ（検察官)．比較法研究 (38)，150-159 (3，1977).

892 横山利秋：ソ連邦での討議中の憲法草案——モスクワの旅のメモから．月刊社会党 (251)，

48–55 (10, 1977).

追　補

893 福島正夫：社会主義法における人の権利と自由〔含　社会主義国の政治と立法一覧表〕. 早稲田法学　52 (1/2), 29–75 (3, 1976).

894 石川惣太郎：社会主義経済の法制——経済法論を中心として. 共産主義と国際政治　1 (2), 89–106 (12, 1976).

895 板寺一太郎：ソ連（特にソヴィェト法）の書誌について. 図書館学会年報　22 (3), 129–136 (12, 1976).

896 中山研一：ポーランドの累犯対策——社会適応センター収容処分を中心として（2完）. 法学論叢（京大）　100 (3), 1–34 (12, 1976).

897 夏目文雄：ソヴェト刑法用語字典. 愛知大学法経論集　法律編 (82), 162–184 (10, 1976).

898 ソ連・労働紛争審理手続規則, 小島吉俊訳. 海外労働経済月報　26 (12), 37–50 (12, 1976).

R899 渡辺久丸：E・W・ナサレンコ「社会主義法意識と法創造」. 立命館法学　(125/126), 105–119 (9, 1976).

参　照

〔147〕, 〔148〕, 〔654〕, 〔802〕, 〔947〕, 〔948〕.

2.4 経済, 統計

900 ボヤルスキー (Боярский, А, Я.)：人口学読本——批判的人口学の教程, 市原亮平監訳（上・下）. 京都　三和書房　1976–77. 2冊.

901 ダニーロフ (Данилов, В. П.)：ロシアにおける共同体と集団化, 荒田　洋；奥田　央訳. 東京　御茶の水書房　1977. 289.

902 ハンソン (Hanson, P.)：ソ連の消費水準——西側諸国との比較, 中鉢正美監訳, 金田良治訳. 京都　ミネルヴァ書房　1977. 317.

903 入江節次郎；星野　中編：帝国主義研究　2——帝国主義の古典的学説. 東京　御茶の水書房　1977. 641, 帝国主義年表：〔564〕–603, 文献目録：605–634.

904 石渡貞雄：現代資本主義と社会主義への二つの道. 東京　御茶の水書房　1977. 287.

905 上島　武：ソビエト経済史序説——ネップをめぐる党内論争. 東京　青木書店　1977. 273.

906 コメコン諸国統計年鑑　1976年度, コメコン書記局編, ジャパン・プレス・サービス〔訳〕. 東京　ジャパン・プレス・サービス　1977. 510.

907 日本ブルガリア経済委員会・ブルガリア日本経済科学技術協力委員会合同会議（第4回　ソフィア　1977)：合同会議議事録　第4回. 東京　日本ブルガリア経済委員会　1977. 173.

908 ラウパッハ (Raupach, H.)：ソビエト経済の歴史, 玉野井芳郎監訳. 東京　学陽書房　1977. 212.

909 シュムペーター (Schumpeter, J. A.)：今日における社会主義の可能性, 大野忠男訳. 東京　創文社　1977. 282.〔「資本主義と社会主義」(1973年刊）の改題増補版〕.

910 諸外国における統計の制度と運営　4, 行政管理庁行政管理局統計主幹〔編訳〕.〔東京〕　行政管理庁行政管理局統計主幹　1977. 223. 内容：アメリカ合衆国；スペイン；ハンガリー；ポーランド；ニュージーランド；インドネシア；インド；国際連合.

911 ソ連科学アカデミー世界経済・国際関係研究所：資本主義の全般的危機の深化, 浅原正基；鶴田三千夫訳. 東京　協同産業株式会社出版部　1977. 396, 21.

912 ソ連閣僚会議附属中央統計局編：ソ連国民経済統計年鑑　1975年, 国際経済分析研究会訳. 東京　水旺社　1977. 832.

913 ソ連東欧貿易会：1970年代の東西貿易　1977年. 東京　1977. 217.

914 ————：東西経済協力の制度と実態——冷戦からデタントへの米国・西欧主要国の現状. 東京　1977. 204.

915 ソビエト連邦外国貿易省計画経済局：ソ連貿易統計年鑑 1975年度. 東京 ジャパン・プレス・サービス 1977. 309.

916 鈴木啓介：シベリア開発と日ソ経済協力. 東京 日刊工業新聞社 1977. 262, 3.

917 舘 周平：社会主義経済の敗北——この眼で見たソ連・東欧のジレンマ. 東京 月刊ペン社 1977. 227.

918 富岡 裕：社会主義経済の原理（叢書・現代の社会科学）. 東京 法政大学出版局 1977. 343.

---

919 ブルス (Brus, W.)：ポーランドにおける経済と政治，佐藤経明訳. 現代の理論 14 (2), 128-131 (2, 1977).

920 デイヴィス (Davies, R. W.)：ソビエト経済制度の出現 1927-34年，下斗米伸夫訳・解説. 思想 (642), 78-96 (12, 1977).

921 藤田 整：ソヴェト経済における計画化実務の現段階——整合性，最適性および民主性を確保する問題. 経済学年報（大阪市大） (37), 1-51 (2, 1977).

922 現代社会主義経済の課題——現代社会主義における市場メカニズムの評価（理論・政策シンポジュウム報告第2部 I)：問題提起 現代社会主義における問題の所在（大内 力)；コメント（中山弘正；高橋 満；佐藤経明)；討論（大内 力〔他〕). 資料平和経済 (191), 1-20 (7, 1977).

923 五井一雄：東独型経済改革の特質と問題点——計画と市場の問題. 日本経済政策学会年報 (25), 99-102 (5, 1977).

924 浜砂敬郎：Б. Г. プロシュコと統計利用研究. 長崎大学教養部紀要 人文科学 (17), 1-15, (1, 1977).

925 平田重明：チェコスロバキアにおける国有化の経験について（講演). 比較法学 12(1), 125-144 (6, 1977).

926 堀林 巧：ハンガリーにおける価格体系——1968年価格改革とその後の改革. 大阪市大論集 (28), 73-94 (8, 1977).

927 ————：ハンガリーにおける経済改革——分権的管理への移行（1968-). 大阪市大論集 (27), 43-70 (3, 1977).

928 細谷千博：ECとコメコン. 外務省調査月報 18 (2), 1-15 (7, 1977).

929 井手啓二：ハンガリー 社会主義における自己革新——1956年以後の社会・経済改革. 現代と思想 (29), 164-173 (9, 1977).

930 池上 惇：ヴァルガ論争における国家と独占. 経済論叢（京大） 119 (1/2), 1-20 (2, 1977).

931 岩林 彪：わが国における社会主義経済研究の一断面——「前期的」社会主義論批判を中心に. 経済 (157), 281-294 (5, 1977).

932 岩田 裕：長期経済発展の最適性基準の一考察 (2)——ルミャンツェフの見解とスミルノフの数理経済モデル分析による展開によせて. 高知大学学術研究報告 社会科学 25 (3), 37-49 (2, 1977).

933 香川敏幸：ユーゴの市場社会主義経済システムの制御可能性をめぐって——財政・金融および所得政策を中心に. 日本経済政策学会年報 (25), 92-98 (5, 1977).

934 海道 進：生産効率の向上計画. 国民経済雑誌 135 (5), 24-39 (6, 1977).

935 貝出 昭：ハンガリー新国民勘定体系について——経済計画と経済指標. アジア経済 18(9), 71-85 (9, 1977).

936 神田明典：Экономическая программа дворянской реакции и политика И. А. Бышнеградского. 旭川大学紀要 (5), 195-214 (3, 1977).

937 片岡信之：チェコスロバキアにおける第1次経済改革の顛末. 龍谷大学経済経営論集 16(3), 26-60 (1, 1977).

938 ————：チェコスロバキアの第2次経済改革——「プラハの春」の経済的側面. 龍谷大学経済経営論集 16 (4), 54-119 (3, 1977).

939 加藤　寛：日ソ経済関係の現状と将来．新防衛論集　5 (2)，1-15 (10，1977).

940 桂　昭政：統計指標・統計指標体系についての一考察——И. П. スースロフの所説を中心として．桃山学院大学経済経営論集　19 (3)，67-90 (12，1977).

941 金　鐘碩：東ドイツにおける過渡期と「発展した社会主義社会」論．海外事情研究　4 (1)，1-15 (3，1977).

942 コヴァレフスキー (Ковалевский, М. М.)：「共同体的土地所有，その解体の諸原因，過程および諸結果」序文，中嶌太一訳．彦根論叢　(187)，71-85 (11，1977).

943 小山洋司：ソ連邦第1次5ヵ年計画期 (1928-1932年) における都市と農村との間の経済的諸関係．海南経済学　(5)，17-65 (3，1977).

944 熊谷一男：独占資本の内部対抗論から独占資本と国家との間の機能メカニズム論へ——ドイツ民主共和国歴史学界の最近の研究動向．経営論集 (明大)　24 (3/4)，177-192 (3，1977).

945 牧原憲夫：源蓄完了期革命論としての「二つの道」論——レーニン「二つの道」論再考．歴史学研究　(448)，37-42 (9，1977).

946 牧野　博：世界経済と「国家資本主義トラスト」——ブハーリン．→〔903〕帝国主義研究　2.

947 松下輝雄：「社会主義経済統合」における法と経済の問題．→〔1159〕東欧諸国の銀行政度と金融管理.

948 道広泰倫：ソビエトの保険法 (5)——国家保険．山口大学教養部紀要　(11)，13-35 (10，1977).

949 嶺野　修：コミンテルンと世界経済論 (2-3の2)．経済学研究 (北大)　27 (1)，191-231；27 (2)，89-108；27 (3)，103-140 (3；5；8，1977).

950 見野貞夫：コミュナルイコーノミを求めて——ソビエトロシア20年代の自己解剖とその模索．山口経済学雑誌　27 (1/2)，81-168 (7，1977).

951 宮本勝浩：社会主義経済の均衡成長理論．経済研究 (大阪府大)　22 (4)，59-71 (10，1977).

952 宮本良成：ソビエト型経済の刺激体系について．経済学雑誌　77 (4/5)，92-144 (11，1977).

953 宮坂純一：社会主義のもとでの個人的な物質的関心について．経済論集 (北海学園大)　25 (2)，97-117 (10，1977).

954 宮下誠一郎：ソ連の「工業化論争」と中国の経験．社会科学年報 (専修大)　(11)，5-65 (6，1977).

955 水谷良夫：独占資本主義と恐慌・産業循環——レーニン「帝国主義論」を手がかりとして．三田学会雑誌　70 (3)，358-370 (6，1977).

956 望月喜市：最適価格論における2つの評価価格系——久保庭氏の所説によせて．経済評論　26 (3)，120-133 (3，1977).

957 百済　勇：ドイツ民主共和国 (DDR) における社会主義政治経済理論の発展 (2)——とくに新経済制度導入から，経済学教科書「社会主義政治経済学入門」(1974年)，SED 第9回党大会 (1976)，SED 新綱領 (1976) に集大成された理論体系までの推移・発展に関する一考察．駒沢大学外国語学部研究紀要　(6)，1-35 (3，1977).

958 森　博美：地方統計にみるソビエト統計の現状と問題点．統計学　(33)，41-57 (9，1977).

959 森岡　仁：社会主義国の人口問題．駒沢人口研究年報　(4/5)，38-50 (3，1977).

960 盛田常夫：ソ連邦の「総合物財・資金バランス」について．経済研究 (一橋大)　28 (2)，116-122 (4，1977).

961 守武　戢：社会主義における消費と蓄積の関係．商経論集 (早大)　(32)，93-109 (3，1977).

962 永野重雄：着実に進展する日ソ間経済協力——第7回日ソ経済合同会議を終えて〔含　日ソ・ソ日経済委員会第7回合同会議共同コミュニケ〕．経団連月報　25 (11)，31-36 (11，1977).

963 仲　　弘：ソ連経済問題の焦点，物価と農業——ソ連経済をみる視点について．窓　(21)，20-23 (6，1977).

964 中嶌太一　アジア的生産様式論によせて——周代中国社会性質規定に関するテーケイ＝ワシリーエフ・モデル．彦根論叢　(185/186)，195-212 (10，1977).

965 中村太和：所有と管理に関する一考察——「社会主義の準備」について．経済理論　(156)，

23-40 (3, 1977).

966 成田幸範：ソヴェト経済とホズラスチョート．立教経済論叢 (11), 1-25 (12, 1977).

967 西口章雄：ロシア資本主義発展論と「帝国主義」——レーニン．→〔903〕帝国主義研究 2.

968 西村可明：マルクスの所有概念について——社会主義経済論からの一考察．経済研究(一橋大) 28 (3), 261-271 (7, 1977).

969 丹羽春喜：ソ連経済発展の凄惨なドラマに再認識の目を．世界経済 32 (4), 2-16 (4, 1977).

970 ————：ソ連経済における国防支出，投資および消費——物価構造との関連．共産主義と国際政治 2 (1), 2-51 (6, 1977).

971 野尻武敏：西欧の東欧経済研究——西ドイツとオーストリア．神戸大学経済学研究年報 (23), 1-67 (2, 1977).

972 野村良樹：ソ連の「総合物財・資金バランス」に関する一評価．関西大学経済論集 26 (4/5), 75-92 (1, 1977).

973 ————：ソ連の「統計出版物文献目録」への一評価．経営研究（大阪市大） 28 (1), 1-21 (5, 1977).

974 欧 龍雲：コメコン加盟諸国の機関の間における物品の受渡一般条項．法学研究(北海学園大) 13 (1), 103-136 (7, 1977).

975 小川和男：革命60周年のソ連経済——資源問題と工業課題を中心に．世界経済評論 21(11), 61-73 (11, 1977).

976 ————：共産圏の対資本主義圏通商政策．国際経済 (28), 1-12 (11, 1977).

977 ————：共産圏の対資本主義圏通商政策の動向——重要性を増した「長期経済協力」．世界経済評論 21 (1), 47-52 (1, 1977).

978 小串克忠：ソ連の経済改革．海外事情 25 (1), 19-23 (1, 1977).

979 ————：ソ連の経済改革．海外事情研究所報告 (13), 41-46 (3, 1977).

980 岡田 真：ユーゴスラビアの人口移動誘因と日本の人口Uターン誘因，駒沢人口研究年報 (4/5), 21-37 (3, 1977).

981 岡田 進：ソ連社会主義経済の成長と構造．→〔743〕社会主義諸国とその国際環境に関する研究.

982 岡村東洋光：ローザ・ルクセンブルグ「資本蓄積論」についての一考察．経済学研究（九大） 43 (1), 59-72 (7, 1977).

983 小野一郎：現代社会主義の経済体制と民主主義——ソ連における効率・分権・参加の問題をめぐって．現代と思想 (29), 44-59 (9, 1977).

984 小野 堅：第1回ソ連邦農業・家内工業博覧会（1923年）について——「クラースヌイ・アルヒーフ」史料を中心に 大阪外国語大学学報 (38), 149-164 (3, 1977).

985 大野喜久之輔：社会主義経済の発展と消費．国民経済雑誌 136 (1), 32-47 (7, 1977).

986 大島国雄：現代ソ連経済と物価問題．青山経営論集 12 (2), 1-12 (9, 1977).

987 大谷竜造：The Intellectual Capital of Michal Kalecki に寄せて．経済研究（一橋大） 28 (4), 355-359 (10, 1977).

988 斎藤 稔：危機深まるコメコン体制．月刊世界政経 6 (2), 149-157 (2, 1977).

989 佐藤経明：70年代後半期のソ連・東欧経済．国際問題 (208), 31-49 (7, 1977).

990 ————：政治と経済のはざまで——東欧で考えたこと．経済評論 26 (9), 80-89(9, 1977).

991 沢田于一郎：ソ連・東欧経済体制比較．外国学研究 (7), 1-41 (3, 1977).

992 染谷武彦：ソ連第10次5ヵ年計画と現代社会主義経済学．商学研究科紀要（早大） (4), 133-147 (7, 1977).

993 ソ連・東欧経済をめぐる諸問題と今後の方向．日本銀行調査月報 28 (10), 5-21 (9, 1977).

994 ソビエト連邦世界経済研究所編：社会主義諸国間の原・燃料部門における協力の進展——社会主義圏の資源・エネルギー戦略，杉本昭七；田中 宏訳・解説．世界経済評論 21 (10), 86-98 (10, 1977).

995　竹浪祥一郎：EC とコメコン諸国との関係．世界経済評論　21 (7)，33-41 (7, 1977).

996　————：試練に立つソ連・東欧経済．現代の理論　14 (1)，55-69 (1, 1977).

997　田中　弘：1970 年代前半におけるソ連の貿易構造と価格変動の影響——「ソ連邦外国貿易統計集」による資料検討を通して．外務省調査月報　18 (2)，16-115 (7, 1977).

998　田中寿雄：日ソ経済協力と今後の課題——ソ連経済の実態把握も肝要．貿易と関税　25 (8)，27-31 (8, 1977).

999　田中慎一郎：社会主義国における物価問題——ソ連の消費者価格引上げについて．月刊社会党 (247)，199-205 (6, 1977).

1000　鶴岡重成：現代社会主義の経済と政治——W・ブルス「社会化と政治体制」に関連して．思想 (631)，128-140 (1, 1977).

1001　渡辺博史：社会主義国における資本主義像 —— 社会主義国ポーランドの素描．　経済評論　26 (4)，76-87 (4, 1977).

1002　矢吹満男：再生産表式論の理論的意義とその限度——レーニン「不均等発展表式」の「体系的」位置づけを中心として．専修経済学論集　12 (1)，27-78 (9, 1977).

1003　山本　敏：第 2 次大戦をはさむソ連経済の動向について．　経営論集（明大）　24 (3/4)，61-175 (3, 1977).

1004　山本　正：ソヴェト経済学界における数学的方法利用の動向 (1-2)——エヌ・ペ・フェドレンコ編「経済=数学モデル」(1969 年）の検討を中心として．静岡大学法経短期大学部研究紀要法経論集　(39)，39-72；(40)，55-90 (3；12, 1977).

1005　山本統司：C. M. Меньшиков「現代資本主義経済における循環と恐慌」について．経済学研究科紀要（関東学院）　(4)，53-57 (11, 1977).

1006　山内武夫：ブルガリア　経済と政治体制——ソフィアでの管見から．現代と思想　(29)，156-163 (9, 1977).

1007　安平哲二：1970 年代のソ連経済成長と経済戦略．経済と経済学　(39)，7-34 (3, 1977).

1008　————：ソ連の経済改革の動向——1865-75 年間の経過．　共産主義と国際政治　2 (1)，52-73 (6, 1977).

1009　横倉弘行：社会主義経済の構造——1972 年ソヴェト部門連関バランスの再現．　商学論纂　19 (2)，45-86 (7, 1977).

R1010　藤岡光夫：アー・ヤー・ボヤルスキ編（市原亮平監訳）「人口学読本上・下」．統計学　(33)，63-70 (9, 1977) →〔900〕.

R1011　源河朝典：芦田文夫「社会主義的所有と価値論」．経済研究（一橋大）　28 (4)，379-380 (10, 1977) →〔'76-595〕.

R1012　平野絢子：F. Fekete, E. O. Heady 及び B. R. Holdren 著「集団農場の経済学——ハンガリーにおけるその目標と最適条件」．三田学会雑誌　70(3)，140-143 (6, 1977).

R1013　肥前栄一：B. П. ダニーロフ著，荒田洋，奥田央訳「ロシアにおける共同体と集団化」．社会経済史学　43 (4)，98-107 (12, 1977) →〔901〕.

R1014　飯尾　要：岩田昌征「社会主義の経済システム」．経済研究（一橋大）　28 (4)，377-378 (10, 1977).

R1015　伊藤達也：アー・ヤー・ボヤルスキー編「人口学読本」．人口問題研究　(141)，54 (1, 1977) →〔900〕.

R1016　門脇　彰：斎藤　稔「社会主義経済論序説」．　歴史学研究　(445)，58-61，47 (6, 1977) →〔'76-694〕.

R1017　川浦孝恵：P. ハンソン著「ソ連の消費水準——西側諸国との比較」．共産主義と国際政治　2 (2)，89-91 (9, 1977) →〔902〕.

R1018　気賀健三：丹羽春喜著「ソ連・東欧の統計体系とその特異性」．共産主義と国際政治　2 (1)，120-123 (6, 1977).

R1019　松井憲明：ロシア農民共同体論と農民経済論との総合の模策——ダニーロフ著「ロシアにおけ

る共同体と集団化」. 思想 (642), 156-167 (12, 1977) →〔901〕.

R1020 岡本 正: 芦田文夫著「社会主義的所有と価値論」. 立命館経済学 26 (1), 173-184(4, 1977) →〔'76-595〕.

R1021 鈴木重靖: 平田重明編「コメコン=CMEA 体制の展開 ——社会主義経済統合の論理と現実」. アジア経済 18 (5), 109-111 (5, 1977) →〔'76-596〕.

R1022 吉田靖彦: 和田敏雄著「ソビエト計画経済の構造と機能」. 共産主義と国際政治 2 (2), 85-88 (9, 1977) →〔'76-607〕.

追 補

1023 レーニン (Ленин, В. И.): ロシアにおける資本主義の発展 1-3 (国民文庫), 副島種典監訳. 東京 大月書店 1976. 3冊.

1024 宮本勝治: 分権的経済計画と社会主義経済の理論 (大阪府立大学経済研究叢書 44). 堺 1976. 148.

1025 日本工業倶楽部: チェコスロバキア事情 (経済調査資料 24). 東京 1976. 162.

1026 ————: ユーゴスラビア事情 (経済調査資料 25). 東京 1976. 231.

1027 プレオブラジェンスキー (Преображенский, Е. А,): 新しい経済——ソビエト経済に関する理論的分析・試み, 救仁郷繁訳. 東京 現代思潮社 1976. 456, 6. 〔新装版〕.

1028 ソ連東欧貿易会: ソ連の第10次5カ年計画 (1976-1980年) 東京 1976. 311.

1029 ————: ソ連・東欧の新5カ年計画 (1976-1980年). 東京 1976. 279

1030 岩崎俊夫: ソ連邦部門連関バランス・モデル. 経理研究 (25), 79-96 (8, 1976).

1031 望月喜市: ソ連の経済計画の改善と数学利用. 経済研究 (一橋大) 27 (2), 97-108(4, 1976).

1032 守武 戡: 社会主義的蓄積過程. 商経論集 (早大) (30), 109-133 (9, 1976).

1033 大橋昭一: 東ドイツにおける経済の内包的発展について. 関西大学商学論集 21 (4), 29-48 (10, 1976).

1034 小野 堅: ネップにかんする若干の考察——レーニンの所説の検討から. 大阪外国語大学学報 (37), 105-118 (3, 1976).

1035 ポーランド統計庁の組織と機能, 楠本佐絵子; 近藤芳枝; 関根紀子訳. 統計局研究彙報 (31), 139-155 (3, 1976).

1036 副田満輝: 社会主義と商品生産——社会主義経済学の「商品関係」論に関する批判的考察. 海外事情研究 4 (2), 1-32 (9, 1976).

1037 鈴木啓介: 欧州安保協力体制下の経済関係——東西貿易の一側面. 共産主義と国際政治 1(2), 70-88 (12, 1976).

1038 竹浪祥一郎: 70年代前半のソ連・東欧経済. 桃山学院大学経済経営論集 18(3), 223-239(12, 1976).

1039 若林 彪: ユーゴ型社会主義経済の根本問題 (1) ——「社会的所有」概念の検討. 松山商大論集 27 (3), 53-74 (8, 1976).

1040 依田道子: アルバニアにおける社会主義建設の課題 —— 第4次5カ年計画 (1966-70) 期, 第5次5カ年計画 (1971-1975) 期を中心に. 社会科学研究 (62), 19-38 (7, 1976).

R1041 長屋政勝:「統計情報」・1974年. 統計学 (31), 103-105 (9, 1976).

参 照

〔53〕, 〔149〕, 〔175〕, 〔282〕, 〔304〕, 〔305〕, 〔684〕, 〔894〕, 〔1152〕.

2.5 経営, 労働

1042 一ノ瀬秀文: 社会主義会計の成立. 京都 ミネルヴァ書房 1977. 24.

1043 今井俊一編: 現代企業の組織と管理. 京都 ミネルヴァ書房 1977. 7, 235.

1044 松尾憲橘: 社会主義簿記. 東京 同文館出版 1977. 284.

1045 宮坂純一：ソビエト労務管理論——ソ連邦における科学的労働組織（HOT）の研究．東京　千倉書房　1977．321．
1046 森　　章編：社会主義企業論（経営会計全書　21）．東京　日本評論社　1977．215．
1047 日本貿易振興会編：海外ビジネスガイドブック：ソ連．東京　1977．192．
1048 ————：海外ビジネスガイドブック：東欧．東京　1977．361．
1049 向坂逸郎；篠藤光行：レーニンの労働組合論．東京　労働大学　1977．473，4．
1050 笹川儀三郎；石田和夫；山下高之；井上　宏：生産と労働の経営理論．京都　ミネルヴァ書房　1977．4，228．
1051 角谷登志雄；高堂俊弥編：転換期の企業労務．京都　ミネルヴァ書房　1977．8，232．
1052 スヴェンツィツキー（Свенцицкий, А. Л,）：ソ連の行動科学的管理論，片岡信之；田中照純；宮坂純一訳．東京　同文館出版　1977．164．
1053 田中利一：虹のかけはしの旅．東京　誠文堂　1977．340．
1054 山下幸夫編：経営史——欧米（経営会計全書　2）．東京　日本評論社　1977．284．

1055 荒又重雄：レーニンと「労働者調査」．経済学研究（北大）　27（2），181-189（5，1977）．
1056 フェルシェ（Ferge, Z.）：ハンガリーを中心にみた女性の有償労働と無償労働——不平等の源泉．ILO 時報　29（1），52-72（3，1977）．
1057 二神恭一：労働者自主管理企業における所有と成果配分の問題．商学研究科紀要（早大）　(3)，21-35（3，1977）．
1058 ————：労働者自主管理の参加的側面——ユーゴスラヴィア企業の場合．組織科学　11(2)，52-62（6，1977）．
1059 林　　昭：社会主義企業の成立過程と労働者統制——東ドイツの経営協議会の経験から．龍谷大学経済経営論集　16（4），21-53（3，1977）．
1060 ————：ユーゴスラビアでの労働者自由管理の一端にふれて．　龍大社研所報　(8)，14-16（1，1977）．
1061 井手啓二：社会主義企業の組織・管理．→〔1043〕現代企業の組織と管理．
1062 ————；チェルカフスキ（Czerkawski, K.）：ヨーロッパの社会主義国における企業管理制度改革．立命館経営学　15（5/6），91-107（3，1977）．
1063 稲村　毅：社会主義企業労務の諸問題．→〔1051〕転換期の企業労務．
1064 石川晃弘：チェコスロヴァキアにおける経営参加．日本労働協会雑誌　(217)，2-10(4, 1977)．
1065 川喜多　喬：ユーゴスラヴィア——労働者経営経済の諸困難．現代思想　5（12），16-29（11，1977）．
1066 小林茂三：ソ連における労働力需給の諸問題．共産主義と国際政治　2(1)，100-119(6, 1977)．
1067 クッパーナーゲル（Kupfernagel, E.）：ドイツ民主共和国における社会主義経営経済学の発展と内容および社会主義経営の基本的特徴，林　　昭訳．龍谷大学経済経営論集　17(1), 112-126（7，1977）．
1068 丸山恵也：社会主義圏の経営問題．→〔1054〕経営史．
1069 正亀芳造：ドイツ民主共和国におけるプレミアム制度の変遷．六甲台論集　24（1），101-118（4，1977）．
1070 松尾憲橘：独立採算制の基礎．明大商学論叢　60（4），1-46（10，1977）．
1071 ————：社会主義簿記の本質．明大商学論叢　59（3/4），1-20（1，1977）．
1072 宮本良成：ソビエト型企業と技術革新．経済学雑誌　76（1），1-27（1，1977）．
1073 宮坂純一：社会主義競走の経営学的位置づけ．経済論集（北海学園大）　25（1），73-100（7，1977）．
1074 三代川正次：現代ソヴィエト管理論の動向——Г. Х. ポポフの所論を中心に．経営経理研究(拓大)　(17)，21-40（10，1977）．
1075 森　　章：ロシア会計からソビエト会計へ．明大商学論叢　60（4），47-89（10，1977）．

1076 森　章：ソビエトにおける減価償却の規程と会計処理について．明大商学論叢　59 (3/4)，177-200 (1，1977).

1077 ――――：社会主義減価償却基金の理論について――アー・ヴェー・ビリヤエフの所説を中心として．経理知識　(56)，71-84 (3，1977).

1078 ――――：ソビエトにおける資本主義減価償却研究――エフイモバとアファナシュフの所説を中心として．明大商学論叢　59 (5/6)，45-67 (2，1977).

1079 森　広正：ドイツ民主共和国の社会主義企業．→〔1046〕社会主義企業論.

1080 津田直則：労働者管理経済の経済理論――Vanek 型の問題．桃山学院大学経済経営論集　19 (2)，203-224 (9，1977).

1081 中村美智夫：東ドイツにおける独立採算制と原価計算――原価場所計算と原価計画化をめぐって．明大商学論叢　59 (5/6)，69-98 (2，1977).

1082 ――――：東ドイツにおける原価計算の発展．明大商学論叢　59 (3/4)，201-229(1, 1977).

1083 二瓶剛男：ソビエト社会主義の戦後段階――重化学工業の展開を中心に．→〔645〕現代社会主義.

1084 西村可明；山本　敏：ソビエトの社会主義企業．→〔1042〕社会主義企業論.

1085 丹羽春喜：ソ連実質賃金水準の長期変動についての諸問題．経済経営論叢(京都産大)　12(2)，22-81 (9，1977).

1086 大橋昭一：東ドイツにおける管理の科学の生成．関西大学商学論集　22(2)，1-21(6, 1977).

1087 岡田裕之：社会主義における労賃の範疇（中・下）．経営志林　14 (1)，27-43；14 (2)，23-37 (4；7，1977).

1088 大野喜久之輔：ユーゴ型市場社会主義における企業の投資行動．神戸大学経済学研究年報 (23)，69-98 (2，1977).

1089 大島国雄：ソ連の経営組織――経済体制との関連において．組織科学　11(1), 55-63(3, 1977).

1090 柴　宜弘：ユーゴスラヴィア労働者自主管理思想の淵源――ツルヴェニ・バーリャック(赤旗)事件について．歴史と地理　(257)，11-16 (2，1977).

1091 塩川伸明：ネップ初期の労働組合――1923 年の危機とその克服．ロシア史研究　(26)，65-86 (4，1966).

1092 ――――：ネップの導入と労働組合．歴史学研究　(443)，1-18 (4，1977).

1093 スキャソビッチ (Sukijasovic, M.)：社会主義諸国における多国籍企業に対する統制――西側先進諸国企業との合弁関係促進をめぐって，杉本昭七訳・解説．世界経済評論　21 (6)，106-112 (6，1977).

1094 高木雄郷：自主管理社会主義とユーゴの未来――新たな段階にはいった労働者自主管理．月刊労働問題　(241)，64-69 (11，1977).

1095 田中慎一郎：DDR における非人民所有企業の人民所有企業への移行．北九州大学商経論集 12 (2)，1-22 (1，1977).

1096 田中雄三：ソ連　企業におけと勤労者の管理参加．現代と思想　(29)，184-189 (9，1977).

1097 ――――：ソ連工業企業における労働者の管理参加についての一考察．社会科学研究年報（龍谷大）(8)，93-106 (7，1977).

1098 ――――：ソ連工業における「労働生産性指標」問題 (1) ――「経済学の諸問題」誌上の討論によせて．龍谷大学経済経営論集　17 (3)，133-157 (12，1977).

1099 辻　義昌：2 月革命前ペトログラート機械工の賃金関係．早稲田社会科学研究　(16)，71-115 (2，1977).

1100 和田敏雄：労働組合論争と労働者自主管理――現代社会主義論への一つの示唆．拓殖大学論集 (110/111)，1-52 (3，1977).

1101 山崎泰夫：チェコスロバキアにおける労働・社会事情．世界の労働　27(10), 34-46(10, 1977).

追　補

1102 三島康雄：昭和初年の日・ソ漁業会社の労務管理の相互影響．経営史学　11(1)，110-133 (7,

1976).
1103 大島国雄：日本におけるソ連経営研究の歩み——社会主義経営学会設立記念大会記念講演．青山経営論集 11 (2), 45-59 (9, 1976).
参　照
〔143〕,〔206〕.

2.6 産　　業

1104 日南田静真：ロシア農政史研究　改訂版．東京　御茶の水書房　1977. 430.
1105 日ソ漁業科学技術協力翻訳印刷文献：極東水研篇．〔東京〕 水産庁　1977. 太平洋漁業海洋学研究所50年史——沿革と業績.
1106 ソ連問題研究会：シベリア・極東の輸送力——シベリア・極東輸送力調査研究委員会報告書．〔東京〕 1977. 151.
1107 ソ連の農業・食料問題，農政研究センター編．東京　御茶の水書房　1977. 381.

1108 有馬達郎：改革前ロシア製鉄業の構造 (1-2完)．社会経済史学　42 (6), 1-24; 43 (1), 25-53 (3; 6, 1977).
1109 ————：戦後ソ連の農政——生産力の問題を中心として．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題.
1110 ————：戦後ソ連の農政——生産力の問題を中心として．農業構造問題研究　(110), 31-44 (1, 1977).
1111 芦沢正和：農業生産の技術上の問題と試験研究体制．→〔1107〕ソ連の農業・食糧問題.
1112 ————：野菜の技術的問題．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題.
1113 現代ソ連農業をめぐる諸問題 (討論)：有馬達郎；内嶋善兵衛；大内　力；小川和男；小倉武一；金田辰夫；阪本楠彦；中山弘正；原田竹治；的場徳造；丸毛　忍．→〔1107〕ソ連の農業・食糧問題.
1114 原田竹治：ソ連の土壌と農業．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題.
1115 ————：ソ連の土壌と農業．農業構造問題研究　(110), 45-61 (1, 1977).
1116 平井次郎：見てきた外国の農業(2)——飼料添加物のはなし(ルーマニア)．あすの農村　(33), 100-109 (8, 1977).
1117 保坂哲郎：最近のブルガリア農業の発展．高知大学学術研究報告　社会科学　25 (6), 73-93 (3, 1977).
1118 池田博行：ソ連経済と輸送・交通網体系．共産主義と国際政治　2 (1), 74-99 (6, 1977).
1119 鎌田　隆：ソ連邦農業における協業化と農工統合の現状．商経論集（沖縄国際大）　6 (1), 19-33 (8, 1977).
1120 金田辰男：第10次5ヵ年計画と畜産．→〔1107〕ソ連の農業・食糧問題.
1121 ————：「新5ヵ年計画」にかけるソビエト農業．農業と経済　43 (3), 72-78 (3, 1977).
1122 ————：ソ連農産物・食糧品貿易の構造．→〔1107〕ソ連の農業・食糧問題.
1123 小島修一：ネオ・ナロードニキの農業理論——オガノフスキーにおける農業認識の構造について (1-2)．甲南経済学論集　18 (1), 71-92; 18 (2), 145-164 (6; 11, 1977).
1124 丸毛　忍：二つの時代と二つの農業開発計画——ロシア共和国非黒土地帯とカザフ共和国処女地地方を比較しつつ．→〔1107〕ソ連の農業・食糧問題.
1125 ————：二つの時代と二つの農業開発計画——ロシア共和国非黒土地帯とカザフ共和国処女地地方とを比較しつつ．農業経済問題研究　(111), 4-25 (4, 1977).
1126 ————：革命60周年と農業問題．共産主義と国際政治　2 (3), 71-92 (12, 1977).
1127 的場徳造：コルホーズの発展．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題.
1128 松本　勇：ソ連海運の最近の動向——その資本主義先進海運諸国に及ぼす影響．長崎県立国際経済大学論集　11 (2), 81-126 (11, 1977).
1129 村田　武：戦後東ドイツにおけと土地改革と農民経営．土地制度史学　(77), 46-63 (10, 1977).

1130 中山弘正：1970年代のソ連農業と政策．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題．

1131 成田精雄：ソ連鉄鋼業の現状と展望．鉄鋼界 27 (8)，26-32 (8, 1977)．

1132 奥田 央：フートルとコルホーズ——農村の居住様式について．思想 (642)，105-126 (12, 1977)．

1133 ————：ソビエトの工業化と農民的小工業 (1-2) ——クスターリ工業史の決定的段階 1928-1930．社会科学研究（東大） 29 (2)，1-90；29 (3)，85-160 (8；10, 1977)．

1134 桜井 豊：農業基礎論の現代的意義——(2) 社会主義経済の建設と農業基礎論．*Economic Frontier* (5)，31-43 (3, 1977)．

1135 笹川儀三郎：現代社会主義の工業管理；戦後のソビエト工業管理の動向．→〔1050〕生産と労働の経営理論．

1136 ————：最近におけるソビエト工業管理の動向．経営研究（大阪市大） 27 (416)，127-141 (3, 1977)．

1137 社会主義国における土地所有と農業（シンポジウム）：ユーゴスラビア（太田一男）；ポーランド（阪本楠彦）；チョソン（小林三衛）；ソビエトと中国（福島正夫）；農業構造問題研究 (112)，4-63 (7, 1977)．

1138 柴山露夫：1975年における穀作等の凶作とその影響．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題．

1139 ————：ソ連農業の当面する諸問題．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題．

1140 鈴木義嗣：ソヴィエト農業集団化とスターリニズム体制の確立．かながわ論叢 (11)，3-36 (3, 1977)．

1141 富岡庄一：The Development of the Iron Related Industries in the Second Half of the 19th Century —— The Significance of the Industries "Structural Change" in the Establishment of Russian Capitalism. *Hokudai Economic Papers* (7)，35-72 (1977)．

1142 ————：19世紀後半におけるロシア鉄工業の発達——ロシア資本主義の確立における鉄工業の「構造転換」の意義．土地制度史学 (76)，15-35 (7, 1977)．

1143 東欧の農政記者がみた日本農業——ポーランド農業ジャーナリストクラブ副会長アダム・サール氏に聞く．（インタビュー）A. サール；aff 編集部．aff 農林省広報 8 (12)，38-41(12, 1977)．

1144 ツィメーク (Цимек, A. A.)：ソ連邦の林業地区 (4)，細川隆雄訳．トランスポート 27(10)，24-35 (10, 1977)．

1145 内嶋善兵衛：ソ連の気候——農業気候を中心として．→〔1107〕ソ連の農業・食料問題．

1146 八雲香俊：シベリアの産業開発と交通問題 (2)．国士館大学政経論叢 (26)，1-36 (9, 1977)．

1147 山田寿太郎：ソ連農業と農業不振 (1)．経済学雑誌 76 (3)，1-32 (3, 1977)．

1148 山口次郎：コルホーズについて．京都産業大学論集 6 (1)，173-195 (1, 1977)．

1149 山崎春成：チャヤノフと農民経済の理論．経済学雑誌 77 (4/5)，54-68 (11, 1977)．

1150 吉田靖彦：ソ連農業の趨勢．青山経済論集 29 (3)，100-126 (12, 1977)．

R1151 大島藤太郎：池田博行著「帝政ロシア交通政策史」．社会科学年報（専修大） (11)，375-385 (6, 1977) →〔1154〕．

R1152 高田和夫：B. П. ダニーロフ，荒田 洋・奥田 央訳「ロシアにおける共同体と集団化」．歴史学研究 (449)，63-64 (10, 1977) →〔901〕．

R1153 渡辺 寛：中山弘正「現代ソヴェト農業」．経済学論集（東大） 43 (2)，95-98 (7, 1977) →〔'76-722〕．

追 補

1154 池田博行：帝政ロシア交通政策史．東京 西田書店 1976. 463.

1155 神田明典：ロシア工業化政策と鉄道運賃改正——1889年の鉄道事業局設立を中心に．旭川大学紀要 (4)，83-98 (3, 1976)．

参 照

〔140〕，〔174〕，〔184〕，〔203〕，〔793〕．

2.7　金融，財政

1156　金融財政事情研究会：東欧諸国の経済発展と対外経済関係——東欧金融調査団報告（1976年）．東京　1977．14，287．

1157　小川和男：活発化する東西金融協力——ソ連・東欧諸国の対西側債務累増と信用度．世界経済評論　21（5），41-50（5，1977）．

1158　田中寿雄：東欧諸国の銀行制度とその特質．国際経済　(28)，200-207（11，1977）．

追　補

1159　田中壽雄編：東欧諸国の銀行制度と金融管理（アジア経済調査研究双書　237）．東京　アジア経済研究所　1976．225．

1160　長谷川信彦：東欧諸国の産業金融制度．→〔1159〕東欧諸国の銀行制度と金融管理．

1161　小林茂三：東欧諸国の財政制度．→〔1159〕東欧諸国の銀行制度と金融管理．

1162　小山晴平：東欧諸国の外国為替制度と機能．→〔1159〕東欧諸国の銀行制度と金融管理．

1163　田中壽雄：東欧の銀行制度．→〔1159〕東欧諸国の銀行制度と金融管理．

1164　渡辺珠雄：社会主義の商品・貨幣関係．→〔1159〕東欧諸国の銀行制度と金融管理．

2.8　社会，社会学

1165　ホランダー（Hollander, P.）：アメリカ人とソビエト人——社会学的比較，寺谷弘壬；渡辺良智訳．東京　紀伊国屋書店　1977．386．文献目録：366-386．

1166　石川晃弘：くらしのなかの社会主義——チェコスロヴァキアの市民生活．東京　青木書店　1977．252．

1167　磯村英一編：現代都市の社会学．東京　鹿島出版会　1977．271．

1168　カイザー（Kaiser, R. G.）：ソ連のなかのロシア——どっこいおれたちは生きている，吉本晋一郎訳．東京　原書房　1977．297．

1169　工藤幸雄：ワルシャワの七年（新潮選書）．東京　新潮社　1977．238．

1170　大木伸一：ソ連人——誤解と理解．東京　サイマル出版会　1977．237．

1171　ポーランドの民族衣装．東京　恒文社　1977．2冊．

1172　鈴木　充：私のみたソ連の内側．東京　日貿出版社　1977．241．

1173　内村剛介：ロシヤ風物誌．東京　西田書店　1977．246．

1174　坂内徳明：大ロシア南部の「祖先ぬくめ」の習俗について．一橋教叢　78（1），109-116（7，1977）．

1175　————：ロシアの神ヤリーロ．一橋研究　1（4），112-137（3，1977）．

1176　————：新年を迎えるロシア人の民俗．ロシヤ語ロシヤ文学研究　(9)，26-39（10，1977）．

1177　浜口晴彦：ルーマニアにおける都市化と社会変容．社会科学討究　22（3），39-55（5，1977）．

1178　石川晃弘：ユーゴスラヴィアの地方制度と住民自治．→〔1167〕現代都市の社会学．

1179　加藤九祚：ブルガリア民族学の旅．国立民族学博物館研究報告　2（2），393-422（7，1977）．

1180　中山研一：ポーランドの売春問題（留学雑感　4完）．ちくま　(96)，26-27（4，1977）．

1181　ネフスキー（Невский, Н.）：アイヌのフォークロア（1），魚井一由訳．えうゐ　(5)，148-162（11，1977）．

1182　新田　実：ソ連社会の自己認識について．→〔743〕社会主義諸国とその国際環境に関する研究．

1183　斎藤正二：ロシア社会学とマルクス主義社会学．社会学論叢　(69)，64-74（7，1977）．

1184　芦川嘉久子：ロシアの民俗衣裳（1-3）．窓　(21)，38-42；(22)，38-44；(23)，25-31（6；9；12，1977）．

1185 柴田嘉彦：仏・伊・ソ連にみる社会的な保障．労働運動 (137)，94-101 (5, 1977).
1186 鈴木 明：ポーランドの「謎」．波 11 (7)，22-25 (7, 1977).
1187 高畠徹郎：ソ連社会学者の「労働者階級論」．月刊社会党 (245)，192-198 (4, 1977).
1188 田中真晴：ウェーバーのロシア論研究序説．甲南経済学論集 18 (2)，1-19 (11, 1977).
1189 牛見 章：ソビエト都市計画の近況．都市計画 (95)，29-36 (4, 1977).
1190 ――――：ソ連の住宅・都市建設について．建築雑誌 92 (1130)，65-68 (12, 1977).
1191 渡辺良智：ソビエトにおけるマス・コミュニケーション社会学．東京大学新聞研究所紀要 (25)，69-91 (3, 1977).

追 補

1192 坂内徳明：鳥――狩猟時代からの使者．ロシア手帖 (10)，18-22 (12, 1976).
1193 寺谷弘壬：ソ連と宗教――社会学的研究．青山学院大学一般教育部会論集 (17)，113-119 (1976).
1194 渡辺良智：社会主義の多様性と社会学的研究．共産主義と国際政治 1(2), 109-117(12, 1976).

3. そ の 他

1195 ヴィンター (Winter, K.) 編：ドイツ民主共和国の保健・医療――25年の歩みと成果，日野秀逸訳．東京 形成社 メディカル出版 (発売) 1977. 259.

1196 アクサーコフ (Аксаков, С. Т.)：釣り場所の選定について――「釣魚雑筆」より，貝沼一郎訳．えうる (4)，121-125 (3, 1977).
1197 浅田 敏；高木章雄；坂田正治：ルーマニア地震被害調査報告 (2)――1977年3月4日ルーマニア地震について．建築雑誌 92 (1128)，55-62 (10, 1977).
1198 福岡正巳：ルーマニア地震の教訓――防災都市づくりへ貴重な資料．公明 (187), 118-124(9, 1977).
1199 兵士シュヴェイクと東欧の精神（日本の中の世界 11）(鼎談)：鶴見俊輔；高畠通敏；長田弘．潮 (218)，330-345 (7, 1977).
1200 広沢雅也：ルーマニア地震報告．建設月報 30 (7)，84-89 (7, 1977).
1201 堀 秀道：南ヤクート開発二題――バム鉄道と永久凍土．窓 (20)，20-75 (3, 1977).
1202 井上正蔵：ゲーテの手――DDR の旅から．図書 (336)，31-33 (8, 1977).
1203 香内三郎；高木喜孝：ロシア革命の報道状況とそのインパクト――2月革命への対応とジャーナリズムにおける「言論活動」様式の変容．東京大学新聞研究紀要 (25)，1-32 (3, 1977).
1204 松野一博：ルーマニア地震について．新都市 31 (8)，59-62 (8, 1977).
1205 森安達也：ポーランド人のユーモア．月刊言語 6 (1)，92-95 (1, 1977).
1206 中山研一：生活簡素化のすすめ（留学雑感 1）．ちくま (93)，16-17 (1, 1977).
1207 西島有厚：ソ連と切手（切手の話 1）．窓 (23)，32-33 (12, 1977).
1208 野口昌吾：ユーゴスラビア，ブルガリア雑感．通産ジャーナル 10 (2)，76-83 (5, 1977).
1209 小川政邦：デルスの秘宝・ツングースの謎・盲聾唖児教育・鍼術．窓 (21)，50-55(6, 1977).
1210 ――――：カナリヤ コマンドル．窓 (20)，46-51 (3, 1977).
1211 大津定美：ユーゴスラビア国際セミナー．龍大社研所報 (8)，11-14 (1, 1977).
1212 ロシア史研究会例会20年の歩み．ロシア史研究 (26)，94-100 (4, 1977).
1213 斎藤哲市：コーカサスの長寿村からの報告．月刊ペン 10 (12)，184-194 (12, 1977).
1214 須山義幸：もうひとつの木の空間 (4)――スラヴ神話神殿とロシア・カレリアの木造教会．SD スペースデザイン (154)，4-28 (7, 1977).
1215 高橋宣彦：戦前のナウカの思い出．窓 (22)，26-29 (9, 1977).
1216 武田勝彦：西欧とソ連の日本研究――その類似と相違．窓 (20)，7-12 (3, 1977).

1217　玉井公男：ポーランド雑感．食糧管理月報　29 (11)，3-8 (11，1977)．
1218　柳下　登：日本ミチューリン会とその運動の歴史（戦後日本の科学者運動史　9)．日本の科学者　12 (3)，138-142 (3，1977)．

追　補

1219　中村泰三：ソ連・東欧の野外博物館．人文研究（大阪市大)．28 (2)，185-192 (10，1976)．
1220　大津定美：イギリスのソ連・東欧学会 (NASEES)．龍谷大学経済経営論集　16 (1)，169-176 (9，1976)．

受贈図書一覧 (1977.4—1978.8)

(邦語単行書のみ)

バルカン現代史, 木戸　蓊著 (世界現代史　24, 山川出版社　1977 (1,300円).

キリスト教宣教団の観点から見た日本, 修道司祭ニコライ (在日本ロシア領事館付主任司祭) 著, 中村健之介訳. 札幌　中村悦子　1978.

コンサイス露和辞典　第4版, 井桁貞敏編. 三省堂　1977 (3,000円).

チェコスロバキア事情, (経済調査資料　24). 日本工業倶楽部　1977.

非同盟の論理——第三世界の戦後史, レオ・マテス著, 鹿島正裕訳. TBS・ブリタニカ, 1977 (2,500円).

比較法学の歴史と理論, 五十嵐　清著. 一粒社　1977 (2,900円).

北方領土問題解決の四方式——提案・評論・資料, 清水威久著. 霞ケ関出版　1977. (2,300円).

くらしのなかの社会主義——チェコスロヴァキアの市民世界, 石川晃弘著. 青木書店 1977 (1,300円).

リエーニンの思い出　1, クループスカヤ〔著〕, 河村盛一訳注. 川西市河村盛一　1976. (500円).

レーニンと下田条約——北方領土問題のレーニン主義的解決の提案, 清水威久著. 原書房 1975 (1,800円).

プチャーチンと下田, 森　義男著. 下田市下田観光協会　1977 (1,300円).

ロシア亡国論 (覆刻版), 内田良平著. 大東塾出版部　1977 (1,200円).

ロシア・ソビエト　ハンドブック, 東郷正延〔等〕編. 三省堂　1978 (3,400円).

ルーマニアの民話, 直野　敦, 住谷春也共訳編. 恒文社　1978 (1,500円).

社会主義諸国とその国際環境に関する研究(文部省特定研究経費　昭和51年度, 52年度). 東京外国語大学海外事情研究所　1977-78. 2冊.

シベリア開発と日ソ経済協力, 鈴木啓介著. 日刊工業新聞　1977 (1,000円).

ソ連——その虚像と実像　体験的社会主義論, 木村明生著. 泰流社　1977 (980円).

東欧史　新版, 矢田俊隆編, 山川出版社　1977 (世界各国史　13) (2,300円).

ヴェルナー・ホルトの冒険——ある青春の物語, ディーター・ノル著, 保坂一夫訳 (東欧の文学). 恒文社　1978 (1,800円).

ユーゴスラビア事情 (経済調査資料　25). 日本工業倶楽部　1977.